

複式学級と単式学級に属する児童の話し合い過程の比較研究（Ⅰ）

假屋園 昭彦〔鹿児島大学教育学部(教育心理学)〕・丸野 俊一〔九州大学大学院人間環境学研究院〕

Comparison study of children's discussion process between combined class and single grade class (I)

KARIYAZONO Akihiko・MARUNO Shunichi

キーワード：複式学級、単式学級、話し合い、比較研究

問題と目的

近年、学力における、表現、伝達、コミュニケーション能力重視の傾向もあり、従来の教師主導型の授業に加え、授業のなかに児童同士の話し合いを取り入れた、対話型授業がなされるようになってきた。

こうした傾向にともない、対話型授業を行うにあたっての問題点も同時に浮き彫りになってきたと言える。

すなわち、授業に話し合いという学習形態を取り入れる以上、話し合いによって通常の教師主導型授業では培えない力量を児童が身につけることができる、という必然性があるはずである。つまり、話し合いを体験することによって、児童はどのような力量を身につけることができるのか、という点を明らかにしておくことが必要なのである。この点を明確にしておかなければ、単に「やっただけ」、「やりっぱなし」、ということになり、授業に話し合いを導入する意味が薄れる。しかし筆者がみるかぎり、現状では、話し合いによって培われる力量、話し合い活動のねらい、話し合いの評価方法、話し合いへの指導のあり方、といった諸点は曖昧なまま話し合いが授業に取り入れられていると言わざるを得ない。

こうした問題意識に基づき、本研究では、話し合いによって培われる児童の力量とは何か、という点に焦点をあてる。そして、話し合いという学習形態がもつメリットを浮き彫りにすることを目的とする。

さて、話し合いによって培われる力を具体化するため、本研究では複式学級に属する児童と単式学級に属する児童との話し合いを比較する、という方法を用いる。こうした方法を用いる理由を以下に記す。

ある対象の特徴を把握しようとする場合、その特徴は当該の対象に自足的に内在する何かとして捉えるべきではなく、あくまでも他との比較を通して浮かび上がった差異として捉える必要がある。この考え方は言うまでもなく、ソシュールをはじめとする構造主義での基本的発想である。

したがって、単式学級と複式学級それぞれの話し合いの特徴は、互いの比較のなかからはじめて浮かび上がると言える。

従来、児童の話し合い研究は単式学級を対象としたものが多い。これらの研究は、話し合いそのもののスタイル（倉盛・高橋、1998；倉盛、1999）、授業のなかでの発話スタイル（藤江、1999）、話し合い型授業の教師指導のあり方（松尾・丸野、2007）、教科学習場面での発話分析（高垣・中島、2004）といった内容に分類できる。そしてこうした研究の蓄積から、単式学級の話し合いの実相は次第に明らかになりつつある。

一方、複式学級を対象とした話し合い研究には仮屋園・丸野・綿巻・安楽（2004）、仮屋園（2003）、佐々・假屋園（2007）があり、話し合いの実相に関する知見が蓄積されつつある。

こうした現状のなかで、同じ条件のもとで両学級に属する児童に話し合いを行ってもらい、その

※本論文は科学研究費補助金（平成17年度～平成19年度 基盤研究(A) 課題番号 17203039 研究課題名 子どもの発達に応じた創造的ディスカッション技能を育む学習／教育環境作り、研究代表者 丸野俊一）にもとづく研究の一環として行われた。

実相を比較するという試みはこれまで行われていない。こうした意味で、本研究から得られた知見は、話し合い学習における複式、単式両学級の長所短所を浮き彫りにすることが可能になり、今後の話し合い学習のあり方に資することになる。

ところで、複式、単式両学級における話し合いの学習環境は、どのような点が異なっているのだろうか。まず複式学級では、主として教師が不在の間接学習時に話し合い学習が取り入れられている。ここでは、ガイドと呼ばれる案内役が児童のなかから選出され、この案内役が小集団学習をリードするかたちで協同学習が行われる。したがって複式学級の話し合いは、ある程度構造化されていると言えよう。

一方、単式学級では、必ずしも常時ガイドとしての案内役が立てられているとは限らない。また、どのような話し合い形式がとられるかは科目や単元の内容によって多様である。話し合いの頻度も教師の授業の進め方によるところが大きい。

このように学習環境という点からみると、複式学級では話し合いがほぼ毎時間、一定の形式に基づいて行われ、単式学級での話し合いは教科、単元、教師の授業の進め方に基づいて行われる、という違いがある。

こうした学習環境の違いに基づくならば、両学級での話し合いによって培われる力量とはどのようなもので、どのような違いがあるのだろうか。この点を本研究の仮説として以下に述べてみることにしよう。

複式学級では、常時、構造化された話し合いが行われている。そうした学習環境で培われる力は、学びを構成する力、学びの過程を制御する力であろう。

学びを構成する力とは、学びの過程そのものをつくりあげる力である。方針を決め、段取りを整える。いわば学びの計画、時間割、といったものをつくる力である。そして、学びの段階ごとにけじめをつけながら、進展状況に臨機応変に対応しながら、学びをつくりあげていく力である。

制御の力とは具体的には以下のような内容をさす。まず、学習活動を進める際に脱線せず、現在取り組むべき課題について継続的に思考を持続さ

せる力である。また、学習活動において脱線が生じた場合、それを本来の学習活動に引き戻す修復力が挙げられる。さらに自らの学びの状態をモニターし、以後の方向性を定める力が含まれる。

一方、単式学級では多人数ゆえの多様性に基づく能力の伸びが期待される。具体的には、着想や発想の豊かさ、過度の類型化と一般化の少なさ、あるいは集団維持のための主張と抑制とのバランスのとり方、人間関係のなかでのせめぎ合いと折り合いとのバランスのとり方、といった諸点をさす。また多様性の大きな特徴は集団の器である。集団の器とは、多様な意見や人間をどれだけ集団のなかで抱えておくことができるか、を示す。

このように話し合いは、両学級に固有の学習環境を反映したものになることが予想される。こうした予想にもとづき、本研究では、複式、単式両学級に属する児童の話し合いの実相を比較することによって、そこで培われている力量を明らかにすることを目的とする。

対象とした児童は1年生であった。また実施時期は3学期の2月、3月であった。1年生を対象とした理由は以下のとおりである。すなわち、双方の学級に属する児童の過去の学習環境経験時間を統制するためであった。児童の本研究の目的は複式学級、単式学級、それぞれで培われる力量の実相を明らかにすることである。そして児童は入学後、複式学級、単式学級それぞれの学習環境にはじめて接する。したがって、双方の学級に属する児童は、自分が属する学級の学習環境の体験は1年で等しいということになる。

さらに、双方の学習環境経験の違いがはじめての経験後どの程度の時間で出現するか、という点も検討することができる。1年間で学習環境の違いが現れるのか、あるいは1年では現れず1年以上かかるのか、という点は、学習環境の経験効果を知るうえで看過できない問題である。

方 法

1. **被験者**：小学校の複式学級に所属する1年生の児童5名、単式学級に所属する1年生の児童5名であった。
2. **班編成**：複式学級に所属する1年生の児童5

話し合いの課題

1 回目

いま、みなさんは、豪華な船に乗って世界を旅行中です。その時です。船が海賊に襲われました。海賊達はみなさんの船を奪い、みなさんは海に投げ出されました。海には大きなサメがウヨウヨ泳いでいて、今にもみなさんを襲いそうです。あっ、よくみるとみなさんの前方に小さな島が5つあるじゃありませんか。早く5つの島のどれかにたどりつき、サメから逃げてください。

5つの島は次のような島です。

1. 人食い鬼の島
2. ゴキブリの島
3. 砂漠の島
4. 氷の島
5. すぐ病気にかかってしまう島

みなさんはこの島で一生暮らさなければなりません。みなさんはどの島に行きますか。みなさんで話し合っ、意見をまとめて、各班で行きたい島から順番にワークシートに記入してください。そして理由も書いてください。

2 回目

みなさんはいま、ある洞窟のなかに入り、宝物を探す冒険をしているところです。あっ、突然みなさんの後に人食い恐竜が現れました。人食い恐竜はみなさんを食べようとしています。みなさんの目の前には洞窟の抜け道が5つあるようです。でもその抜け道の先には次のようなものが待ちかまえています。

1. ヘビがいる抜け道
2. 毒グモとクモの巣がある抜け道
3. 血を吸うコウモリがいる抜け道
4. オオカミのいる抜け道
5. ワニのいる抜け道

みなさんで話し合っ、みんなの意見をまとめて、各班で一番行きたい抜け道から順番にワークシートに記入してください。その理由も書いてください。

図1-1 話し合いで使った課題

3 回目

みなさんは、ある魔法使いのおばあさんに魔法をかけられてハムスターに変えられました。そこへネコがやってきました。ネコはおなかをすかしているようでみなさんはいまにも食べられそうです。みなさんに逃げ道はなく、どうしてもそのネコと戦わねばならないようです。みなさんには戦うための道具がひとつだけ手渡されます。

1. 食べたらおなか痛くなる腐ったバナナ
2. ライオンの声を出せるマイク
3. たくさんの仲間をすぐに呼び寄せることができる笛
4. 動きをすばやくしてくれる靴
5. どんな傷でもすぐに直すことができる薬

みなさんで話し合っ、みんなの意見をまとめて、各班で一番使いたい道具から順番にワークシートに記入してください。その理由も書いてください。

4 回目

みなさんはとてもかわいい小さな虫です。あっ、カマキリがこちらをにらみつけています。まさか食べられるのでは…。そうです、カマキリはおなかをすかして、いまにもみなさんを襲いそうです。みなさんには助けてくれる虫さんたちが5匹います。

1. カブトムシ
2. パッタ
3. スズメバチ
4. ムカデ
5. 女王アリ

みなさんで話し合っ、みんなの意見をまとめて、各班で一番助けてほしい虫から順番にワークシートに記入してください。その理由も書いてください。

図1-2 話し合いで使った課題

複式学級 2回目話し合いの逐語録と発話機能分析の例

発話番号	話者	発話	発話機能
10	3	これ5人だから最初に決めることやらない？	方略:呼びかけ
11	2	毒クモの道(記入しながら)	作業:作業発話
12	1	いいんだよ, 毒クモで(記入する様子をみながら)	作業:作業発話
13	3	〇〇さんが1番に決めて, あっ, ちよっと待った	方略:プランニング
14	5	私が最初に決めるんだよね	方略:方針確認
15	3	うん, あっちよっと1番消して. 順番でやるから	方略:プランニング
16	1	血を吸うコウモリは最後にしてくれ	主張:発案
17	3	だめだよ, だめだよ, だってここで暮らさないといけないもん	主張:異議
18	1	いやー	対自:感情表現
19	2	あっ, そうか, じゃどこで暮らそうか	受け答え:同意前進
20	4	どこがいい？	受け答え:繰り返し
21	5	まずね, ヘビのいる道でいい	主張:発案
22	3	ワニだろ, あー, オオカミだ, オオカミ	主張:発案
23	2	オオカミ? 食べられちゃうもん	主張:異議

図2 逐語録に発話機能を付与した分析例

名で1つの班, 単式学級に所属する1年生の児童5名で1つの班を作成した。そしてこの2つの班を分析対象とした。班編成は学級担任に一任した。

3. 手続き:話し合いの課題を図1に示す。教科上の知識や学習進度の影響を排するためにこのような日常的な課題を用いた。回答は各班に1枚ずつ配布したワークシートに記入してもらった。話し合いは図1の課題を用いて継続的に4回行ってもらった。話し合いは平成14年2月から3月にかけて実施した。複式学級は平成14年2月25日, 28日, 3月12日, 14日の4回, 単式学級は平成14年3月4日, 11日, 15日, 22日の4回であった。

4. 分析:各班の話し合いの様子はすべてビデオに録画された。録画した映像から逐語録を作成した。この逐語録の発話のひとつひとつに発話機能を付与した。逐語録と発話機能を付与した例を図2に示す。相互作用の計量的分析にはこの発話機能を用いた。また, 相互作用の内容に関する解釈的分析もこの逐語録を用いた。逐語録の作成と解釈的分析は, 協同学習の逐語録分析の経験をもつ大学院生とともに合同でおこなった。

結果と考察

逐語録に記録されたすべての発話に付した発話機能を資料1～資料8として論文末につけた。この資料は考察時に随時活用するためである。

I. 計量的分析

計量的分析のために用いた発話機能の分類表を図3に示す。この分類表は, 仮屋園・丸野・綿巻・安楽(2004), 仮屋園(2003)で用いた分類表にもとづき, 本研究の逐語録の分析に際して新たに作成したものである。

1. 主要な発話機能の出現頻度

表1に各話し合いでの主要な発話機能の出現頻度を示した。表1にみられる特徴から各話し合いの相互作用をみてみよう。

(1) 話し合い時間, 全発話数と作業発話

話し合いの時間, 発話数ともに複式学級よりも単式学級の方が多い。ただし複式学級の4回目の話し合い時間は単式学級より長くなっている。この理由は児童の一人が自分の意見がとおらず泣いてしまうという事態が生じ, 話し合いがこの事態への対応も含めたかたちになってしまったことによる。

このように全体の時間, 発話数が単式学級の方で長くなった理由は作業発話の違いによると言える。作業発話の数は全体的に複式学級に比べ単式学級の方が多い。作業発話は, ワークシートへ回答を書き込みながら発せられる発話である。つまり単式学級の児童は書き込み作業に時間を費やしていることを意味する。一方, 複式学級は書き込み作業に費やしている時間が少ない。

カテゴリー	定義	発話例
方略		
〔プランニング〕	話し合いの方向の内容を表現しているもの。呼びかけとの違いはプランを主張している点	1番にやりたいのを発表してください みんな、選んだ理由を発表して
〔切り換え前進〕	話題の区切りが来たと判断して、違う話題に進むことを表現する発話	はい、次
〔方針確認〕	現在話し合われている内容および今後の方針の確認および整理	ちゃんと理由も考えないと
〔方向性希求〕	方向性が定まらないため、話し合いを特定の方向に導いてくれることを誰かに求める発話。話し合いが混沌として方向、文脈がまとまっていない状態	ちょっと、どうすんの？ どうする、どうする？
〔呼びかけ〕	全体の方向性を決めるための発話。プランニングとの違いはプランを呼びかけている点	じゃ、1番なんにする？
〔モニタリング〕	話し合いがどのように進んでいるのかを俯瞰的にモニターする	①なんでみんなで話し合わないで バツバツって決めるの？②そんな 後からにして、今の話し合いに必 要？必要じゃないでしょ
主張		
〔発案〕	各メンバー個人の意見	私は人食い鬼の島がいいと思います
〔説明〕	自分の意見または他のメンバーの意見についての説明	人食い鬼の島はすぐに食べられてしま うから
〔異議〕	先行発話への異議	みんなそれで賛成してないじゃん。 そんなのでいいの？
〔疑義〕	他者の行動、態度面に対する疑問	なんで〇〇君が考えるんだよ
〔修復〕	逸脱発話をもとに戻そうとする発話	
〔挙手〕	意見を述べる前に行う意思表示	はい ねえ
〔許可〕	特定の行動や作業の実行を認める発話	次はあたしが書いていい？ うん
〔指示〕	他者に特定行動を行うように指示を与える	早く書いて、早く書いてよ
問い尋ね		
〔投げかけ〕	局所的な決定事項をどうするかについて、意見を集める発話	じゃあ、何にする？ 次はどれにする？ 砂漠がいい 人？ これがいい人？
〔念押し〕	自分の思いを相手に再び強調する発話	ステップがあるんだよ、ステップ あたし、砂漠よく知らなーい だから、ステップがあるから大丈夫 だっちゅーの
〔問い直し〕	聞き取れなかった相手の発話をもう一度要求するもの	あ、オアシス 何？
〔問い返し〕	相手の発話の一部に疑問の念を抱き、その一部を疑問形で相手に返すもの	だね。だからワニのいる道 たくさんのワニのいる道？
〔情報請求〕	情報が欲しいとき、不明な点の確認に使われる発話	木、はえてるの？

図3-1 発話機能のカテゴリーの分類

カテゴリー	定義	発話例
問い尋ね	素朴な疑問	ねえ、本当にこうなったらどうする？
〔同意請求〕	同意を求める発話	4番、人食い鬼の島でいいですか？
〔判断請求〕	①他者からの指示をあおぐ ②2つの事柄についてどちらかの判断をあおぐもの	薬もないことにする？
〔許可請求〕	許可を求める発話	次はあたしを書いていい？
〔理由請求〕	理由や根拠を求める発話	はい、理由は？
〔内容の修正〕	先行発話を修正する発話	
〔心配〕	心配して様子をきく	〇〇君、泣いてる？もしかして、
〔まよい〕	反論を受けて揺らいでいる状態	じゃ、どうしよう。
〔声かけ〕	単に声をかけているだけ	
〔指名〕	特定のメンバーに対して発言を求めるもの	〇〇君は？
受け答え	〔連続的發展〕	先行発話を受けて、その内容を発展、精緻化していく発話。特定的话题を積み上げていくやりとりで話し合いの洗練性の指標となる
〔繰り返し〕	先にある発話と同じ発話またはその一部を繰り返す発話	危くないし、食べ物もありそうだから <u>食べ物もあるから</u>
〔言い直し〕	先における自分の発話が自分の意思と異なるものであり、それについて訂正するもの	絶対食べる、あ、絶対食べるじゃない
〔説明〕	問い返しに対する説明	助けたい虫なの？ 助けてもらいたいんだよ。
〔情報提供〕	情報請求に対しての受け答え	浄水場ってないの？ <u>あるわけないじゃん</u>
〔応答〕	①閉じた質問に対しての受け答え ②請求発話に対しての受け答え	暑いのと寒いのがどっちが好き？ <u>寒い</u>
〔確認〕	局所的なレベルでの行為や発話内容、または課題内容についての確認	人食い鬼の方がいいと思う。 <u>えー、一生暮らすんだよ</u>
〔同調〕	個々の発話に対する局所的な合意	いつか食われるが <u>ねえ</u> <u>だよ</u>
〔同意前進〕	先行発話を受けて次の展開にすすめる発話 局所的な展開場面で生じる	あつ、そうか じゃどこで暮らそうか
〔同意〕	①同意請求に対しての受け答え ②話題や文脈レベルでの結論に対する共通理解、結論の収束を示す	2番、氷の島でいいですか？ <u>はい</u>

図3-2 発話機能のカテゴリーの分類

カテゴリー	定義	発話例
受け答え	〔感情表現〕 他者に向けて自分の感情を表出する発話	えー、やだー、ずるい
	〔補足〕 先行発話を受けて付け加えをするもの	あ、鬼は大きいから人は小さいから、鬼は上しか見えないんだと思う 下も見えるよ、下もさ
	〔意味付け〕 先行発話の曖昧さを意味付けて説明するもの	綿とか何かでできてるような あ、綿あめね
	〔感想〕 他者の発話に対して、自分の感想を述べる	よくできるねー
	〔否定〕 先行発話への否定意思を言表化	オアシスがあるから オアシスじゃない
態度	〔不満〕 先行発話や他者の行動に対して感情的な不満を表出した発話	むかつくー、もういやだ
	〔悲観〕 先の見通しが立たず、閉塞状況になっている状況を示す発話	もう、なんか、何したらいいか、意味わかんなくなっちゃった
	〔非難〕 他者の発言または行動の揚げ足を取ったり、弱いところ、不足点をとがめるもの	まるいらないよ だって、それ文じゃないもんね
	〔意思表示〕 自分が行うこと、あるいはこうやりたいという特定行動に対する明確な意思を表明するもの	ちょっと待って、うちが考える
	〔催促〕 発話を急がせる	あー、はやく、はやくしないとおわるよ
	〔受容〕 他者の要望、行動、態度を受け入れる発言	ハチがよかった？ ハチにしたからね
	〔了解〕 相手の主張を受け入れる旨の発言	わかった
	〔うながし〕 特定の発話を促す	
	〔投げ出し〕 ある話題の途中であるにもかかわらず、個人的に話し合いを放棄してしまうこと	勝手にやればいいじゃん どうでもいいよ
	〔願い〕 こうあって欲しいという思いが言表化したもの	虫眼鏡があればいいのに
	〔注意〕 他者の行動、発話を控えるように言い聞かせる、忠告する	もうやめなさい
対自己	〔独り言〕 今自分の考えていることがそのまま言表化したもの	水が飲めるから
	〔自己発話の評価〕 自分の発話について考え直し、それを中止したり改めたりすること	
	〔aha体験〕 (発見の喜び) 先行発話が自己の知識に影響を及ぼしていることを言表化したもの	あ、そっか、お腹が空いてるんだから食べるに決まってるんだ

図3-3 発話機能のカテゴリーの分類

	カテゴリー	定義	発話例
対自己	〔感情表現〕	驚きや感情の言表化、他者に向かっの反応や応答ではなく、自分に向かっの発話	うそー ははは
	〔納得〕	先行発話への納得、理解を表明したもの	いっぱいコート持ってないんだよ。海に投げ出されたんだから <u>考えてみたらそうだね</u>
	〔間合い〕	考え込んだり、行き詰った時に無意識的に発せられるもの	えーと うーん
かき乱し	〔連想的逸脱〕	先行発話に刺激を受けて、課題解決という目的から逸れていった発話	ゴキブリの島だったらさ、少なかつたら大丈夫だけど、多かつたらねえ <u>何か剣を持った勇者が現れて、びしっ</u>
	〔完全逸脱〕	連想的逸脱を皮切りに完全に議論の流れから逸れてしまったものや全く関係のない雑談や歌	人間になってね、あーってね、自分が死んじゃうんだよ どうせ死ぬ <u>ケロウ、ケロウ、いらーなーいーよー</u> <u>何の歌？</u> <u>ふふふ、自分で考えた歌</u>
総括	〔結論確認〕	ある話題について、本決まりではないが、こういう結論でいいかどうかの確認、およびまとめようとする発話。したがってこの段階で結果がまとまるということではない	じゃ、ゴキブリでいい？
	〔結論整理〕	ある話題についてこれまでの結論の確認と整理。この段階では結論が決まっている	<u>1番は砂漠の島、2番はゴキブリの島</u> <u>3番、氷の島</u>
	〔終結〕	話し合われることがもうほとんどない状態に発せられるもの	終わりー
	〔部分的終結〕	話し合いの途中で一区切りしたときに発せられる達成感、安堵感を表す発話	<u>オッケー、やった、できた</u> じゃあ、いい？言っていくからね
	〔結論づけ〕	ある話題についての最終的な結論、合意を形成する発話	2番目、オオカミのいる道だね
作業	〔作業発話〕	鉛筆、紙などのやりとりや実際の作業にともなう発話	あ、貸して
	〔書き方修正〕	結論記入時の字の誤りなどを訂正する発話	すぐに、すぐ、にが抜けてる

図3-4 発話機能のカテゴリーの分類

表1 主な発話機能の出現頻度

発話機能の分類	1回目		2回目		3回目		4回目	
	複式	単式	複式	単式	複式	単式	複式	単式
方略	3	2	3	0	0	0	2	0
プランニング	7	9	8	5	6	4	9	6
切り換え前進	2	3	5	1	0	0	1	3
方針確認	0	2	0	3	0	0	0	0
方向性希求	2	0	4	0	2	3	5	0
呼びかけ	0	0	0	0	0	0	4	0
モニタリング	26	36	16	35	28	29	27	19
主張	20	15	24	4	2	3	6	2
発案	0	7	4	4	1	6	2	0
説明	0	0	0	0	0	0	1	0
異議	0	0	0	0	0	0	1	0
疑義	0	0	0	0	1	0	0	0
修復	0	0	0	0	0	0	0	0
問い尋ね	0	9	0	8	1	11	12	7
なげかけ	0	3	0	0	0	0	0	0
同意請求	0	0	0	0	0	0	0	0
許可請求	3	0	0	0	0	0	0	0
判断請求	0	0	0	0	0	0	0	0
心配	37	6	12	18	63	31	8	37
受け答え	0	2	1	3	3	0	5	0
連続的發展	2	5	7	5	0	1	1	4
確認	0	8	0	2	2	9	0	8
不満	0	1	6	0	5	0	0	0
非難	0	0	0	0	0	0	0	0
意思表明	0	10	5	3	3	1	2	6
寛容	4	3	2	3	0	8	4	2
連想逸脱	5	4	4	5	1	0	0	1
完全逸脱	6	2	4	2	1	2	1	1
総括	1	3	4	4	0	0	0	0
結論確認	6	3	2	1	0	0	0	0
結論整理	18	24	6	54	5	45	18	25
結論づけ	4	0	0	0	0	0	0	0
作業発話	207	212	179	214	148	199	152	162
書き方修正	12:53	14:25	12:28	17:18	11:30	17:00	15:25	12:45
全発話数								
話し合い時間								

表2 各回に出現したアイデア数

各回のアイデアの数				
	1回目	2回目	3回目	4回目
複式学級	10	8	8	6
単式学級	7	12	7	14

表3 連続的発展発話の連続ターン数の出現頻度

	1回目		2回目		3回目		4回目	
	複式	単式	複式	単式	複式	単式	複式	単式
1回	1	2		3	1	2	3	
2回		2	1	2		1		
3回	2			2	2	1		3
4回	1				1	1		1
5回	2		2	1		1	1	2
6回					3	1		
7回	2							2
8回								
9回						1		
10回								
11回								
12回					1			
13回以上					1(22回)			

この現象は、間接指導時という限られた時間内で話し合いを終わらねばならない複式学級の特性を表していると言える。もちろん単式学級でも話し合いの時間は限定されているのであろうが、単式学級の児童は複式学級に比べ、時間制限と言う意識が薄いのかもしれない。換言すれば単式学級には、「のびのびと奔放に」、「無駄も多く含みながら」という面が強く、複式学級では「できるだけ効率よく進める」という面が強いのかもしれない。

(2) 主張・発案発話とアイデア数

自らの意見を主張する発話は発案発話とした。発案発話はいくまでも単発的な発案を述べたものである。この発案発話にもとづいて、その内容を精緻化、発展していく発話が続く場面を連続的発展発話とした。したがって、連続的発展発話は発案発話の後に続くかたちになっており、一定の話題が継続することを意味する。

さて、この発案発話は複式学級に比べ単式学級の方が多。つまり積極的に自分の意見を主張し、アイデアを出す、という行為は単式学級の方

が多かったことを意味する。

この点をさらに裏づけるために各話し合いで出されたアイデアの数を比較してみた。この結果を表2に示す。また各話し合いで出されたアイデアの内容は資料9にまとめて示した。

表2の結果をみると、総アイデア数は複式学級より単式学級の方が多。また単式学級は回を追うにつれて出されたアイデア数が減少していることもわかる。

発案発話数、アイデア数ともに単式学級の方が多、という結果が得られた。これは、班の人数は同じであるものの、単式学級の方が活発な提案を行ったことを意味する。先述のとおり、単式学級には複式学級に比べて、多人数ゆえの多様性という特徴がある。こうした多様性にもまれる体験のなかから多様な発想が育まれると言えるのかもしれない。

同時に、論文末の資料をみてもわかるとおり、単式学級は複式学級に比べ発案発話が連続して続くという場面も多い（たとえば単式1回目の発話番号1～4、30～34、および単式2回目の発話番

号43～47)。発案発話が連続するという事は、特定の成員から出された意見に関する話題が継続することなく、異なった意見が単発的に次々と出されては消えていく、という現象を意味する。つまり、ひとつひとつの意見を吟味することなく、次々と自分の意見を出している状態である。こうした状態では、話し合いのなかに一定の方向性や文脈が形成されない。したがって、一定の方向性のもとに意見を交換し、発話された内容を精緻化していく、という構造化された話し合いがなされない。

こうした諸現象から、単式学級では活発な意見提出はあるものの、一定の方向性や文脈を形成し、特定の話題のもとに意見を蓄積していくというかたちの話し合いがなされていない可能性がある。

そこで次に一定の話題のもとで、どの程度意見の継続的蓄積がなされているのかをみてみることにしよう。

(3) 連続的發展発話

連続的發展発話は、先述のように特定の発案発話を話題として、その内容を精緻化、発展させていく継続的な話し合いである。こうした話し合いのなかではじめて文脈や方向性が生まれる。

この点を検討するために表3に連続的發展発話の連続ターン数をまとめた。連続ターン数とは、一定の話題にもとづく発話のやりとりが何回継続したかを示す。

表3をみると、単式学級では1回目、2回目の話し合いでは、2回、3回程度の短いやりとりで終わり、一定の話題にもとづくやりとりが継続していないことがわかる。しかし、3回目、4回目にかけては比較的長い回数やりとりが出現している。

一方、複式学級の方は、1回目の話し合いから長いやりとりが出現している。このことは複式学級の児童は、一定の話題のもとに方向性をつくり、話し合いを組み立てていく能力が身につけていることを示す。

ただし同時に表3からは、単式学級の方も同じ類の課題で話し合いを繰り返すことによって、一定の方向性のもとに話し合いを組み立てていくこ

とが可能であることも示されている。

ここまでの結果から示唆されることは以下のとおりであろう。すなわち、単式学級の場合、発案数は回を重ねるごとに減少しているが、連続的發展発話の連続ターン数は逆に増加している。このことは、単式学級の児童の1回目、2回目の話し合いは、意見を出し合うだけで一定の方向性に基づくやりとりが少ないが、次第に方向性にもとづくやりとりが見え始め、構造化された話し合いができるようになってきていることを示す。一方、複式学級の児童の話し合いは、活発な発案行動は少ないものの1回目から構造化された話し合いになっている。

(4) 投げかけ発話

表1にみられる大きな特徴のひとつに投げかけ発話がある。投げかけ発話は局所的な決定事項について、どうするのかを成員に投げかけ、意見を収集するときの発話である。

投げかけ発話は、4回目を除くと複式学級にはほとんど出現していない。複式学級の4回目は先述のように泣き出した児童がいたため3回目までの話し合いと様相が異なっている。一方、単式学級には、1回目から4回目まで毎回出現しており、単式学級における投げかけ発話の多さは注目に値する。

投げかけ発話は、「どれがいいですか」、「5番がいい人?」、「カブトムシがいい人?」、というように、話し合いにもとづいて集約する際に生じる発話ではない。投げかけ発話が生じる場面は、話し合いでまとまらず多数決による決定の仕方を採用する際に用いられる場合、および単発的な主張が乱立して収拾がつかない場合である。

多数決をとる場合でも特定の話題について継続的な意見交換をしたうえで多数決であればよいが、論文末の資料にあるように単式学級の投げかけ発話は、発案の応酬の後に出現している場面が目立つ。たとえば、単式学級1回目の発話番号13、15の投げかけ発話は単発的な発案発話が7回生じた後に出現している。同じく単式学級1回目の発話番号36の投げかけ発話も、その前に発案発話が5回続いた後に出現している。また単式学級3回目の発話番号29、30の投げかけも同様に発案

と異議とが続いた後に出現している。

このように単式学級での投げかけ発話の多さは、単発的な発案発話、異議、不満が続き、収拾がつかなくなつたうえでの強引な決着策、あるいはどうしてもいかわからない場合の発話として出現している傾向にある。こうした傾向は、単式学級の児童は自由闊達に意見を出し合うものの、意見を集約する方略に乏しいことを示唆している。こうした面は単式学級と複式学級との違いとして特筆されるものであろう。

(5) 不満、非難

表1からは、単式学級は複式学級に比べて、非難、不満発話が多いことも大きな特徴である。逐語録からは、特定の2人の児童間に対立傾向があることがわかった。話し合い場面に日常の親密性が入り込むことはよくみられることであろう。したがって、特定の2人の親密性がこの話し合いにも反映された可能性がある。ただし同じことは複式学級にもあてはまることである。

先の投げかけ発話、発案の応酬、にみられるように、全体的に単式学級の児童には、特定の話題に対して意見を蓄積し合うという話し合いの志向性ともいべき傾向が弱い。

(6) 総括発話

総括発話は結論の確認、結論の整理、といった各話題の結論に関するまとめの発話については以下のような特徴がみられた。すなわち、こうしたまとめの発話は、複式学級、単式学級ともに回を追うごとに減少している。おそらく、同じ類の課題について話し合いを重ねるごとに、結論が出た時点についての共通理解が成立し、結論を発話として明言しなくても各成員に了解が成立したものだと思われる。

(7) 方向性希求（方略）

この発話は、明確な方向性が定まらない状態において、「どうするの？」という方向性を求める発話である。したがって、この発話が出現するということは、方向性や文脈が定まらず、意見の乱立状態にあることを意味する。表1をみるとこの発話は単式学級のみ出現している。論文末の資料での単式学級1回目における発話番号10の方向性希求発話は、発案発話が7回つづくという意見

の乱立状態のなかで生じ、その直後に強引に収集をはかる投げかけ発話が生じている。

こうした方向性希求が生じる背景には、まとめ役の不在が指摘できよう。複式学級にはこの発話が全く出現していないことから、複式学級では定期的に間接指導の時間帯があり、そこでは案内役が立てられる。この案内役は定期的に交代するかたちになっている。そしてそれだけに複式学級の児童は誰も案内役の経験があり、話し合いをまとめたり、方向性を打ち出したりする力量があるのであろう。したがって話し合いの状況をよみ、臨機応変に誰かがそのつど、まとめ役を担い、方向性を打ち出す、といった活動が出現する。方向性希求発話の出現の違いは、単式学級と複式学級とのこうした学習環境の違いを反映していると思われる。

さて、こうした複式学級の児童に培われているであろうと思われる話し合いの状況を読む、という行為は話し合いのモニターであると言える。次にこのモニター発話についてみてみよう。

(8) モニタリング

表1から、方向性希求発話とは反対に話し合いの状況をモニターしている発話は、複式学級の4回目にのみ出現していることがわかる。具体的な発話の内容は、「なんでみんなで話し合わないでバツバツと決めるの？」（発話番号33）、「なんか1番、2番、3番、4番って決めない方がいいんじゃない？」（発話番号34）、「そんなの後からにして。今の話し合いに必要？必要じゃないでしょ。」（発話番号141）、というものである。最初の2つの発話は、この前の話題で1番を決めるのにいきなり多数決を採用したことへの発話である。話し合いの全体方略が多数決であることを俯瞰的な視点で読み取っている。そしてさらにいきなり多数決で強引に決着を因らずに話し合いをすることを提唱している。こうした発話に複式学級がもつ話し合いへの志向性をみてとることができるといえる。発話番号141の発話も全体状況をみているからこそ出現した発話である。

このように、複式学級の児童は話し合いの全体状況を俯瞰的にモニターし、修復していく力量を身につけている。こうした力量も複式学級の学習

形態によるものであろう。

日常的なガイド学習の経験から、複式学級の児童は話し合いを俯瞰的にモニターし、まとめていく経験をもっている。そしてこの経験が複式学級の児童の話し合いを洗練性の高い、構造化されたものに行っている可能性がある。複式学級の話し合いには、特定のまとめ役が存在するのだろうか、という点は次項の表4における検討でみていくことにしたい。

(9) 方略発話

方略発話は、話し合いの方向性を定め、話し合いを構造化していく発話である。表1における方略発話のなかで、ここでは局所的な切り換え発話である切り換え前進発話は除き、話し合いを構造化するプランニング、方針確認、呼びかけ発話についてみてみることにしよう。

これらの発話の合計数は複式学級が29、単式学級が12、というように大きな違いが出ている。これまでの分析から得られた傾向を裏づけるように、話し合いを構造化し、組み立てようとする姿勢は複式学級の方が高いと言えよう。

特に差が大きいのは呼びかけ発話である。全体的なプランを成員に呼びかける発話が複式学級の方で多く出現しているということは、集団のまとまりをつくらうとする意識と共通理解をつくらうとする意識の表れである。そして単式学級に弱いのはこうしたまとまりへの意識であると言っていることができる。

2. 主要発話の話者

先述のように複式学級の児童はみな、定常的にまとめ役を経験している。そのため話し合いを俯瞰的にモニターし、成員に呼びかけ、方向性をつくる活動に長けているという傾向がみられた。そこでここでは、表4をみながら各話し合いにおいてのまとめ役の有無、あるいは重要な機能をもつ発話を中心的に発している話者の有無についてみていくことにしよう。もしこうした役割を担う成員が各話し合いに存在しているということが明らかにできれば、こうした成員の存在が構造化された話し合いを成立させる条件のひとつとなりうると言えよう。

(1) 方略発話

表4-1からわかることは、方略発話を発している話者を複式学級では特定できるのに対し、単式学級では方略発話をする話者が分散している点である。

複式学級1回目では話者1、2回目では話者3、3回目では話者1、4回目では話者3と話者5、というように、明確なまとめ役の存在がみとれる。しかも話者1と話者3とが交互に務めており、ルーティン性を感じることができる。一方単式学級では3回目に話者2が突出しているものの、3回目以外では話者が分散している。

この結果から複式学級では、方略発話を発し、話し合いをまとめていく役割を担う特定の児童が存在したとすることができよう。そして本研究のような通常の授業ではない話し合い場面においても、まとめ役は機能していたのである。話し合い場面では、まとめ役を名乗り出る発話はなかったため、おそらく自然発生的にまとめ役を担う児童が現れ、他の成員もそれを認めた。そしてまとめ役を担う児童の役割を尊重し、その指示や呼びかけに異議を唱えることなく、話し合いをすすめていったということができよう。つまり複式学級の児童には、話し合いを構造化し、組み立てていくことへの姿勢が備わっていたと言っていることができる。

(2) 発案発話

表4-2、表4-3から発案発話を見てみよう。まず発案発話に関しては、単式学級の話者1の発話数が突出している。つまり単式学級の話し合いでは話者1の児童が積極的に発案発話を行っていることがわかる。一方複式学級での発案発話に関しては1回目は話者3の発話数が多いものの、1回目以外は2名～4名の話者に分散しており、突出した話者はいない。

この結果もいままでの複式学級と単式学級との話し合いの特徴を裏づけるものとなっている。単式学級の話者1は、発案発話が多いものの話し合いを組み立てる方略発話は突出して多いわけではない。つまり意見を表明することには積極的なのだが、話し合いを方向づけし、組み立てる作業には意識が向いていないのである。

表4-1 主要発話の話者

		話者の番号				
		1	2	3	4	5
複式1回目						
方略	プランニング	3				
	呼びかけ	2				
	切り換え前進	3	2	2	1	
	方針確認	2				1
	方向性希求					
	合計	10	2	2	1	1
単式1回目						
方略	プランニング		1	1		
	呼びかけ					
	切り換え前進	1	1	2		5
	方針確認	1	1	1		
	方向性希求		1			1
	合計	2	4	4		6
複式2回目						
方略	プランニング			3		
	呼びかけ			2		2
	切り換え前進	3		2	1	2
	方針確認	2		2		1
	方向性希求					
	合計	5		11	1	5
単式2回目						
方略	プランニング					
	呼びかけ					
	切り換え前進	2		2		1
	方針確認	1				
	方向性希求	1	1	1		
	合計	4	1	1		1
複式3回目						
方略	プランニング					
	呼びかけ	1				1
	切り換え前進	5				1
	方針確認					
	方向性希求					
	合計	6				2
単式3回目						
方略	プランニング					
	呼びかけ	2		2		
	切り換え前進		8			
	方針確認					
	方向性希求					
	合計	2	10	2		
複式4回目						
方略	プランニング			1		1
	呼びかけ	1		3		1
	切り換え前進			5		4
	方針確認					1
	方向性希求					
	モニタリング	1				3
	合計	2		9		10
単式4回目						
方略	プランニング					
	呼びかけ					
	切り換え前進	3	3			
	方針確認	1	1	1		
	方向性希求					
	合計	4	4	1		

表4-2 主要発話の話者

		話者の番号				
		1	2	3	4	5
複式1回目						
主張	発案	5		11	6	4
	説明	2	4	3	6	5
問い尋ね	投げかけ					
	不満					2
総括	非難					
	結論確認	2	4			
	結論整理	1				
	結論づけ	2	2		2	
単式1回目						
主張	発案	12	8	4	2	10
	説明	7	3			5
	異議	2		1		4
問い尋ね	投げかけ	2	4	2		1
	不満	1				4
総括	非難	2				6
	結論確認	1	1			2
	結論整理	2				
	結論づけ	1	1	1		
複式2回目						
主張	発案	12	4	12	2	2
	説明	6	7	3	8	3
	異議		1	2	1	
問い尋ね	投げかけ					
	不満	3		1	3	
総括	非難					
	結論確認	4				
	結論整理	3		1		
	結論づけ	2				
単式2回目						
主張	発案	19	4	2	2	8
	説明	3	1			
	異議					4
問い尋ね	投げかけ	2	3		1	2
	不満	1				4
総括	非難					2
	結論確認	4				1
	結論整理	1				1
	結論づけ		1			
複式3回目						
主張	発案	2	6	4	8	8
	説明			1		1
	異議				1	
問い尋ね	投げかけ	1				
	不満					
総括	非難			1	1	
	結論確認			1		
	結論整理					1
	結論づけ					
単式3回目						
主張	発案	21	4	2		2
	説明	1	1			1
	異議					6
問い尋ね	投げかけ	3	14			
	不満	1				
総括	非難	2	1			6
	結論確認					
	結論整理		1	1		
	結論づけ					

表4-3 主要発話の話者

		話者の番号				
		1	2	3	4	5
複式4回目						
主張	発案	4	6	9	5	3
	説明 異議	2 2		1	1	2
問い尋ね 態度	投げかけ	1	1	8	1	1
	不満 モニタリング	1 4				
総括	非難					
	結論確認					
	結論整理 結論づけ		1			
単式4回目						
主張	発案	12	5			2
	説明 異議		1			1
問い尋ね 態度	投げかけ	1	5		1	
	不満 非難					4 5
総括	結論確認	1	2			
	結論整理		1			
	結論づけ					1

(3) 不満・非難

単式学級の特徴のひとつは先述のように不満、非難発話が多いことであった。

表4からこの不満、非難発話は、単式学級の話者5から出現していることがわかる。逐語録からは、話者1の発案発話に対して話者5が不満や非難を向けていることがわかった。

話し合い時間と全発話数が、複式学級より単式学級の方が高かった理由は、話し合いを効率よくすすめるという意識の他にこうした本来の課題志向的な発話以外の発話の多さがあげられると言えよう。

II. 相互作用の内容分析

以下に逐語録、および発話機能分析によってみられた各班の相互作用の展開の実相をみていくことにしよう。この分析は論文末の資料1～資料8を参照しながら行うこととする。

1. 複式学級の1回目（資料1）

資料1にみられるように話者1が発話番号1において、最初に話し合いの方向性、文脈をつくるための提案と呼びかけ発話をおこなった。節目、節目で話者1がこうした方向性をつくるための方略発話を行っている点の特徴であった。そして他の成員は話者1が投げかけた方向性、文脈につい

ていく、というかたちが最後までみられた。

最初に話者1が順位を決めようというプランを提案した（発話番号1）。話題1から話題3までは順位を決める作業を行った。1番が砂漠、2番がゴキブリという順番になった。話題4からは理由を考える作業に入った。ここで1番の砂漠の理由を考えているうちに、寒いところから暑いところへ移動した方が暑さを乗り越えられる、という結論になり、話題5において順位のねりなおし作業が始まった。ここで1番が氷、2番が砂漠という順位になった。話題6で氷の理由、話題7で砂漠の理由を確定した。ここからは順位を決めると同時に理由も決めていくという方略をとった。話題8で3番がゴキブリとなり、理由も同時に確定した。話題9で4番が人食い鬼に決まり、理由も確定した。話題10で病気の理由を確定した。そして最後の話題11でこれまでの確認を行った。

上記の展開は非常にわかりやすい。このように複式学級の話し合いは整然としている点に特徴がある。話し合いの方向性そのものは壊れないのである。このような整然とした話し合いになった大きな要因は、表3にみられるように一定の話題で話し合いを継続できたからである。複式学級の児童は、1回目から特定の成員の発話に他の成員が乗ってその続きを展開していく、というスタイル

を身につけていた。こうした力量は複式学級に固有の学習環境で得られたものと思われる。

2. 単式学級の1回目(資料2)

論文末の資料2にもあるとおり、複式学級の1回目は単式学級とは対照的であった。話し合って意見をまとめる、という方法はとらなかった。意見をぶつけあうだけで、意見をまとめるという作業は行わず、結局最後まで多数決で決めてしまった。

また、次に進もうとする発話ができるものの他の成員がそれにしつたがわず次に進まないという現象もみられた。たとえば論文末の資料2での発話番号77では、切り換え前進発話が出ているものそこで話題が変わっていない。複式学級とは対照的に方略的発話が生じても他成員がそれについていかないため、方向性、文脈が生じない。このような状況を受けて発話番号80の方向性希求の発話が生まれた。

さらに発話番号152, 153および発話番号164, 165にみられるように、結論確認発話が出ててもそれに対する異議が出されるのでなかなかまとまらない。

こうしたまとまらない状態を示す特徴は、先述の投げかけ発話にもみられる。表4にみられるように、多数決で決めるための投げかけ発話が多いが、この投げかけ発話を発する話者も特定の児童ではなく分散している。つまり、投げかける人間がそのつど異なっている。これはまとめる役が不在であることを示している。

先に話し合い時間が長い原因として作業発話の多さをあげた。作業発話が多くなった原因は、ワークシートに記入する人間を決めることに手間取ってしまったことがあげられる。複式学級の場合、こうした作業は順番で決まっているはずである。あるいは決まってもその場ですぐに順番を決めることができるはずである。しかし単式学級の場合、こうした作業ひとつをとってもまとまらない状況がみてとれる。

また順番を決めた理由も「みんなで決めたから」という理由を何度も使っている。こうしたことからみんなでひとつの意見をまとめていくという志向性が低いことがわかる。

総じて、単式学級の1回目は意見を出し合ってまとめていく、という話し合いの志向性が薄いと結論づけることができよう。話し合うことそのものの意味を十分理解していないとも言えるのかもしれない。

3. 複式学級の2回目(資料3)

複式学級は2回目も最初に全体の進め方を示す方略発話が発話番号10の「5人だから最初に決めることやらない?」、発話番号13の「○○さんが1番に決めて」、発話番号15の「順番でやるから」という発話によって示された。これは誰が何番を決める、という担当制をとるというプランの発案である。そしてこれらの発話はすべて話者3から出ている。1回目のプラン提示は話者1であったが、2回目のプラン提示者は話者3であった。これは表4の方略発話の分析でも指摘したとおりである。

つまり最初に話し合いの段取りを決めたのである。そしてこの方法は最後まで貫かれた。すなわち、局所的な方向性の部分でもめることはあっても、話し合いはあくまで最初の進め方に関する大枠のプランに沿って行われたのである。1回目も2回目に複式学級の児童は最初に段取りを決めた。こうした傾向は、複式学級で培われる力量が学びを構成していく力であるという仮説を支持するものである。

4. 単式学級の2回目(資料4)

単式学級の1回目は、意見を出し合うだけでまとめることができず多数決で決めてしまう、という様相であった。つまり意見を蓄積しながら、当初の単純な内容を精緻化して結論レベルの内容にもっていくという方略をもっていなかった。2回目では多数決はみられなくなったが、上記のような意見を重ねていく方略はまだ不十分であった。2回目の特徴は、特定の成員の発案をそのまま結論として採用するという低次の様相がみられた。そして最初から終わりまで一貫してこの方法がとられた。話者の分析にみられたように、この班では話者1と話者5とが反目し合っていた。そしてこの2人のどちらか一方の発案がそのまま結論として採用されるというかたちで話し合いが進んだ。また、話者1と話者5以外の成員が提出した

意見も話者1と話者5との両者が賛成すれば採択される、というかたちであった。話題9のように、話者1と話者5との意見が割れるとまとまらないという状況であった。この班は話者1と話者5との関係次第で結論が決まっていた。そういう意味でまだ本来の話し合いのかたちにはなっていない。

ただし、2回目に入って1回目より進歩した点もあった。第一に表3の連続的發展発話の分析にみられるように、連続ターン数は少ないもの少しずつ意見を蓄積しあう現象がみられ始めた。

また話者1と話者5との異議、非難の応酬も1回目ほど話し合いの早い段階でみられることはなく、最後の段階に至り表面化しただけであった。2回目に入りお互いにこんな状態では話し合いにならないことがわかり、抑制できるようになったと言えよう。

5. 複式学級の3回目（資料5）

この回は連続的發展発話が頻繁に現れた。この意味で意見の蓄積性のある、よく制御された話し合いになった。仮説で予測したとおり、複式学級の話し合いは、方向性、文脈も明確に確立され、そのなかで意見の蓄積がみられている。この意味で話し合いの制御がよくなされていると言える。

また大枠としての方略は2回目の話し合いでとられた方略が踏襲された。すなわち、5つの選択肢をひとりずつに割り振る方略をとった。そしてこの方略は最後まで保持された。したがって、当該番号の担当者の意見はそのまま採用される傾向にある。担当者の意見にはきちんと従っていた。つまり、一度皆で決めたルールにはきちんと従うという姿勢が身につけている。こうした姿勢があってはじめて方向性のある、よく組み立てられた話し合いが可能になる。

一方単式学級ではこれまでのところ、大枠としての方向性を決めようという姿勢も、話し合っただけで決めようという姿勢もみられていない。こうした意味で話し合いの基本的なスキルが習得されていないと言える。

また単式学級では、話し合いが脱線したり、非難の応酬になろうとした場合、注意のもとに戻そうとする修復発話が現れる点も重要な現象であっ

た。すなわち、「〇〇さん、もうちゃんとしてよ」、「早く、ちゃんしてくれる?」といった話し合いをもとの正常な状態にもどそうとする発話が出現している。これは先にも触れた話し合いの全体的状態を俯瞰的にモニターしている児童の存在を意味している。こうした力も仮説で指摘した学びの構成力、制御力として指摘することができる。

6. 単式学級の3回目（資料6）

単式学級では話し合いの開始から意見の乱立状態が続く。複式学級では、話し合いの開始時には進め方の大枠についての方略発話が出ていた点と比べると対照的である。

特に3回目は投げかけ発話が多い。これは意見の乱立、非難の応酬で収拾がつかなくなっている場面が多いことを意味している。単式学級班はこれまで再三指摘してきたように、話者1と話者5との非難の応酬が軸になってきた。この回は全投げかけ数が17回も出現し、そのなかの14回が話者2の発話であった。この現象は話者1と話者5との言い争いのなかで話者2がなんとか収拾を図ろうとしていることを意味する。

表1の分析時に指摘したように、4回目を除くと投げかけ発話は単式学級に特有の現象である。そして3回目になるとこの発話数が急増している。この急増現象は、特定の話者同士の言い争い、話し合いによらない決定、など話し合いへの志向性がみられない状態への自覚であるとも解釈できる。それゆえに、連続的發展発話の連続ターン数は3回目の話し合いではかなり伸びている。

したがって、話し合いのまとまりはつかないものの話し合いへの志向性は生まれつつある段階として位置づけることができると言えよう。

結論導出の仕方については、特定の成員の提案について、投げかけ発話を行い、誰か一人でも同調すればその時点であっさり結論にしてしまう、という方略がみられた。発案乱立の挙げ句の多数決よりは話し合いへの志向性がみられるものの、結論導出の方略としては稚拙である。

後半に入ると連続的發展発話の連続ターン数も増え（発話番号158-167、発話番号176-181）、意見の蓄積ができるようになった。この点では進

歩がみられたと言える。ただ話題7にみられるように、蓄積はするのだが結論への意見の集約方略を知らないためか、突然出てきた別の意見で収めてしまっている。こうした点が単式学級の今後の課題であると言える。

7. 複式学級の4回目(資料7)

先にも述べたように、複式学級の4回目は自分の意見が通らず泣き出してしまった児童がいた。この児童への配慮行動があったため、4回目はこれまでとは違ったやりとりになった。

話し合いの開始時の話題1もこれまでとは違い、文脈なしに発案を出し合っている状態であった。その後、連続的發展発話が続くが多数決で決めようという意見が出た。

その後こうした動きを修復する発話が出始めた。すなわち、あまりにも単純な理由は採用できない、という意見が出された。

さらに多数決で決めるのではなく、話し合いのもとづいて決めるべきだという話し合いへの志向性発話が現れた。この発話はモニタリング発話としてすでに分析を行った。

このように話し合いの状況を俯瞰的にモニターし、話し合い本来の状態にもどそうとする動き、すなわち話し合いの志向性は複式学級の大きな特徴と言える。

話題2で話者4が自分の意見が通らないために泣き始めていることに他の成員が気づく。そこでできるだけ話者4に決めさせようという動きが生じた。ただしなかなか話者4が発話しようとしななため、そこで話者4に決めさせるか、自分達で決めるかで方向性が曖昧な状態が続く、これまでとってきたような方略にのっとり進め方ができなくなった。

ようやく10分過ぎに全体的な進め方に関する枠組み(発話番号100)が定まった。しかし結局、制限時間が来て課題が未完了のまま終わってしまった。

全体として話者4への気遣いから思うような展開はとれなかった。しかしながらできるだけ話し合いを成立させようとする話し合いへの志向性は強かった。たとえば、みんな話者4のことを心配しているにもかかわらず話者4が遊んでいる発話

番号78-79の場面では、「話者4君が発言しないのだったら、みんなで話し合うよ」という発話が出た。あるいは発話番号85では、ムカデの理由を話者4に決めさせようとしたが、話者4の発話がなかったため、発話番号87で「理由は私たちで考えよう」という発話になった。そしてこうした話者4への気遣い、話し合いへの志向性を狙う発話は、主に話者5から出ていた。主要発話の話者で分析したように、複式学級の4回目では話者3と話者5とがまとめ役になっていた。

このように複式学級では、これまでにはないハプニングがみられたゆえに、一層、話し合いへの志向性が浮き彫りになったと言える。

8. 単式学級の4回目(資料8)

4回目に入ると複式学級の話し合いの様相は今まではかなり変わった。表3にみられたように、開始3、4分頃にはすでに連続的發展発話の連続ターン数が7回にも及んでいる。1、2回目のような開始直後からの意見の乱立状態が続くようなことはなくなった。そして一定の話題のもとに意見の蓄積ができるようになった。すなわち、話し合いらしくなってきたのである。

3回目からすでに連続的發展発話の連続ターン数は増加傾向にあった。つまり話し合いスキル出現の萌芽は3回目からみられていたのである。そして4回目に入ると安定的に連続的發展発話が出現するようになった。

1、2回目の話し合いは、話し合いを行う意味が理解できていないような状態であったが、3回目から4回目にかけて話し合いの洗練性、構造化がなされてきた。この点が単式学級の最大の特徴であった。話し合いのレベルとしては、4回目ではじめて複式学級レベルに到達したと言える。

また話し合い全体の進め方、つまり組み立てに関しても、1番から番号順に対象を選択し、次にその理由を考えていく、という方略が採用され、この方略が最後まで貫かれていた。話し合いのプラン、全体の進め方についても4回目においては大きな進歩があった。

このように単式学級は4回目になってはじめて洗練、構造化された話し合いになったと言えるが、この結論の一般性については当然慎重である

必要がある。つまりこれはあくまで1つの事例にすぎない。この班も話者1と話者5との対立がなければもっと早くまとまりのある話し合いになっていた可能性は十分ある。

総括

総括として、本研究の目的、仮説との対応づけを行いながら本研究の知見を述べてみよう。

本研究は話し合いによって培われる力量とは何か、という点に焦点をあてた。そして学習形態の違いから複式学級、単式学級それぞれの話し合い経験によって培われる力量は異なる、という仮説のもと分析を行った。

複式学級に関する仮説は、話し合い体験によって構成力、制御力という学びを組み立てる力が培われるというものであった。

分析でみてきたようにこの仮説は支持されたと言える。複式学級の児童は単式学級に比べて、最初に話し合いを組み立てるための方向性、進め方をつくろうとする意識が非常に高く、実際の話し合いも構造化されたものであった。これらは仮説での構成力に該当する。

また複式学級の児童は単式学級に比べ、話し合いへの志向性が高い。したがって、意見の蓄積によらない強引な決着方法がとられている場合には、こうした状況を的確にモニターし、修復していこうとする言動があった。こうしたモニター、修復行動は仮説での制御の力に該当する。

従来、複式学級は直接指導時間の少なさから負のイメージで見られることが多かった。また複式学級の特徴としてあげられる小集団学習、異年齢集団交流もスローガンレベルに留まっていた。したがって、こうした学習から培われる力量の具体的な内実是不明瞭なままであった。

こうした力量の具体的な内実の一端は本研究から明らかにされたと言えるのではないだろうか。そして複式学級で培われる具体的な力量の姿が明らかにされることによって、複式学級に対する今までのような負のイメージも払拭される。また複式学級に含まれる学習環境としての可能性が明らかになることによって、複式学級に固有の学習環境は今後多くの学習過程に生かすことができる。

さて一方、単式学級の方はどうであろうか。仮説では、単式学級には多様性があることを指摘した。そして多様さゆえの発想、着想の豊かさ、類型化と一般化の少なさ、せめぎ合い、といった体験を単式学級の特徴としてあげた。

結果から発案発話数、総アイデア数は複式学級よりも単式学級の方が多かった。また単式学級では、発案発話が連続してつづき、よく言えば活発な意見の提案、わるく言えばまとまりのない乱立状態であった。そして単式学級の話し合いは、全体の進め方、話し合いの組み立ての出現が鈍かった。意見を集約し、まとめようとする動きも低調であった。さらに特定の児童同士の対立、言い争いも特徴としてみられた。

仮説と照らし合わせて考えると、単式学級の児童の話し合う姿は仮説を支持するものであった。総じてこれらの特徴はいわば「せめぎあい」と表現できる。そしてこのせめぎあう姿こそ単式学級の話し合いの特徴なのである。

ただし、単式学級も回を重ねるごとに、意見の蓄積、話し合いの組み立て、言い争いの減少がみられた。結果から単式学級の話し合いは、主張から抑制へ、多様性から集約へ、単発から継続へと変化していった。つまり単式学級の児童はバランスを学んだのである。

単式学級で培われる力量とは、多様さゆえのせめぎあいをこなしていく力であろう。そして話し合いを経験することによって、せめぎあうだけでは話し合う集団、話し合いそのものが成立しないことを学ぶ。そしてそこからバランスというかたちの自己制御の力を習得していくことと思われる。

謝辞

本データは本文中にあるように平成14年に収集したものである。しかしデータの分析は、平成17年から19年にかけて、1ページ目欄外に記した科学研究費にもとづく研究の一環として、大学院生の協力のもとに行われたことを記しておきたい。本データ分析に協力いただいた、平成18年度入学鹿児島大学大学院教育学研究科の大学院生、塚里亮大君に感謝の意を記すものである。

引用文献

- 仮屋園昭彦 2003 特認校複式学級に属する児童の異年齢集団による継続的話し合い活動の分析 鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要, **13**, 157-168.
- 仮屋園昭彦・丸野俊一・綿巻 徹・安楽朋陽 2004 複式学級に属する児童の異年齢集団による継続的話し合いの変容分析 鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要, **14**, 145-155.
- 倉盛美穂子・高橋登 1998 異なった意見をもつ児童間で話し合われる話し合い過程の発達の検討 発達心理学研究, **9**, 191-200.
- 倉盛美穂子 1999 児童の話し合い過程の分析－児童の主張性・認知的共感性が話し合いの内容結果に与える影響－ 教育心理学研究, **47**, 121-130.
- 松尾剛・丸野俊一 2007 子どもが主体的に考え、学び合う授業を熟練教師はいかに実現しているか 教育心理学研究, **55**, 93-105.
- 佐々祐之・仮屋園昭彦 2007 複式学級の特性を生かした算数科授業デザインに関する研究 (I)－学習活動における児童の相互作用の様相に着目して－ 数学教育学研究, **13**, 125-136.
- 高垣マユミ・中島朋紀 2004 理科授業の協同学習における発話事例の解釈的分析 教育心理学研究, **52**, 472-484.

資料1 複式学級の1回目話し合いの相互作用

複式1年 第1回目話し合いの発話機能分類(1)

発話番号	話者	時間経過	発話機能	相互作用の展開	
1	1	1:13	方略:呼びかけ	話題1	
2	3		作業:作業発話		
3	4		作業:作業発話	順位を決めるという案を提出する。	
4	3		作業:作業発話		
5	2		作業:作業発話		
6	3		作業:作業発話		
7	1		主張:発案		
8	3		主張:発案	発話番号8	
9	1		対自:間合い	1番目を決める作業に入る。	
10	4		主張:発案		
11	1		主張:発案		
12	2		総括:結論確認		
13	5		主張:説明		
14	2		受け答え:否定		
15	1		方略:呼びかけ	発話番号15	
16	4		主張:発案	1番目は何にするかという呼びかけを行う。	
17	3		主張:発案		
18	4		受け答え:繰り返し	発話番号19	
19	5		主張:説明	1番は砂漠に決定する。	
20	1	2:00	方略:切り換え前進	話題2	
21	3		作業:書き方修正		
22	2		作業:書き方修正	2番目を決める作業に入る。	
23	3		作業:作業発話		
24	2		作業:書き方修正		
25	1		作業:作業発話		
26	5		主張:発案		
27	3		主張:発案		
28	1		主張:発案		
29	4		主張:発案		
30	2		作業:作業発話		
31	4		主張:説明		
32	5		受け答え:同調		
33	3		主張:発案		
34	1		対自:感情表現		
35	3		主張:発案		
36	5		受け答え:同調		
37	3		主張:発案		
38	1		総括:結論確認		
39	4		3:00	受け答え:否定	
40	2			受け答え:同意	
41	4			主張:説明	
42	2			受け答え:繰り返し	
43	3			受け答え:繰り返し	
44	1			主張:説明	2番目はゴキブリに決定する。
45	4			受け答え:連続的發展①	
46	1		受け答え:繰り返し		
47	4	対自:納得			

複式1年 第1回目話し合いの発話機能分類(2)

発話 番号	話者	時間 経過	発話機能	相互作用の展開
48	3		方略:切り換え前進	話題3
49	5		態度:不満	
50	3		主張:発案	病気の話題に入る
51	5		受け答え:否定	
52	3		主張:発案	
53	5		受け答え:否定	
54	3		主張:発案	
55	5		主張:発案	
56	2		総括:結論確認	
57	5		態度:不満	
58	1		総括:結論づけ	
59	2		受け答え:同調	
60	3		問い尋ね:理由請求	
61	5		主張:説明	
62	1		方略:プランニング	話題4
63	3		主張:挙手	
64	1		問い尋ね:指名	砂漠の理由の確定作業に入る
65	4		受け答え:応答	
66	1		方略:方針確認	
67	1	4:00	対自:独り言	
68	3		主張:挙手	
69	1		問い尋ね:指名	
70	3		受け答え:応答	
71	2		主張:挙手	
72	1		問い尋ね:指名	
73	4		主張:発案	
74	1		問い尋ね:判断請求	
75	5		方略:方針確認	
76	4		主張:説明	砂漠の理由が決まる
77	1		総括:結論づけ	
78	3		主張:発案	
79	1		主張:発案	話題5
80	3		受け答え:繰り返し	
81	4		方略:切り換え前進	順位の話題にもどる
82	3		受け答え:同調	
83	5		主張:説明	
84	4		問い尋ね:問い返し	
85	3		作業:作業発話	
86	1		作業:作業発話	
87	4		問い尋ね:問い返し	
88	5	5:00	受け答え:応答	
89	4		受け答え:応答	
90	2		受け答え:感想	氷が1番, 砂漠が2番になる
91	4		主張:発案	
92	2		受け答え:繰り返し	
93	5		主張:発案	
94	1		方略:切り換え前進	話題6
95	5		主張:発案	

複式1年 第1回目話し合いの発話機能分類(3)

発話 番号	話者	時間 経過	発話機能	相互作用の展開
96	3		主張:発案	
97	4		主張:発案	氷の理由の確定作業に入る
98	3		受け答え:感想	
99	1		受け答え:連続的発展①	
100	4		受け答え:連続的発展②	
101	1		受け答え:連続的発展③	
102	1		受け答え:連続的発展④	
103	2		受け答え:連続的発展⑤	
104	3		受け答え:連続的発展⑥	
105	4		受け答え:連続的発展⑦	
106	1		主張:発案	
107	2		受け答え:連続的発展①	
108	3		作業:作業発話	
109	4	6:00	総括:結論づけ	
110	2		方略:切り換え前進	話題7
111	4		主張:説明	
112	5		対自:感情表現	砂漠の理由の確定作業に入る
113	3		主張:拳手	
114	2		主張:説明	
115	3		受け答え:繰り返し	
116	4		受け答え:連続的発展①	
117	1		かき乱し:完全逸脱	
118	3		かき乱し:完全逸脱	
119	4		かき乱し:完全逸脱	
120	2		総括:結論づけ	
121	3		受け答え:同意	
122	1		方略:切り換え前進	話題8
123	3		主張:拳手	
124	1		対自:感情表現	ゴキブリの理由の確定作業に入る
125	3		主張:説明	
126	2		問い尋ね:問い返し	
127	4	7:00	受け答え:連続的発展①	
128	5		受け答え:連続的発展②	
129	2		受け答え:連続的発展③	
130	5		総括:部分的終結	
131	2		方略:切り換え前進	話題9
132	3		受け答え:連続的発展①	
133	2		総括:結論確認	人食い鬼の理由の確定作業に入る
134	5		受け答え:連続的発展②	
135	4		受け答え:連続的発展③	
136	5		受け答え:連続的発展④	
137	3		受け答え:連続的発展⑤	
138	1		対自:感情表現	
139	4		受け答え:連続的発展⑥	
140	5	8:00	受け答え:連続的発展⑦	
141	2		総括:結論確認	
142	5		受け答え:否定	
143	3		かき乱し:完全逸脱	
144	2		主張:説明	

複式1年 第1回目話し合いの発話機能分類(4)

発話 番号	話者	時間 経過	発話機能	相互作用の展開
145	5		主張:説明	
146	1		作業:作業発話	
147	5		受け答え:感想	
148	4		総括:結論づけ	
149	5		対自:発見の喜び	
150	3		方略:切り換え前進	話題10
151	1		態度:うながし	
152	3	9:00	主張:説明	病気の理由の確定作業に 入る
153	4		主張:説明	
154	2		受け答え:繰り返し	
155	3		受け答え:繰り返し	
156	5		受け答え:連続的発展①(理由・根拠)	
157	3		受け答え:連続的発展②	
158	5		受け答え:連続的発展③	
159	1		受け答え:連続的発展④	
160	5		作業:作業発話	
161	1		作業:作業発話	
162	2		受け答え:連続的発展⑤	
163	4		かき乱し:連想逸脱	
164	3		かき乱し:連想逸脱	
165	2		総括:結論づけ	
166	1		方略:プランニング	話題11
167	3		受け答え:同意	
168	1		問い尋ね:判断請求	これまで決まった事柄の 確認
169	4		作業:作業発話	
170	2		受け答え:連続的発展①	1番の氷, 2番の砂漠の理由 についての補足作業
171	5		受け答え:連続的発展②	
172	2		受け答え:連続的発展③	
173	5		受け答え:連続的発展④	
174	1		かき乱し:完全逸脱	
175	4	10:00	主張:説明	
176	3		受け答え:感想	
177	2		主張:説明	
178	1		主張:説明	
179	1		主張:注意	
180	3		主張:説明	
181	5		受け答え:連続的発展①	
182	4		受け答え:連続的発展②	
183	3		受け答え:連続的発展③	
184	4		受け答え:連続的発展④	
185	5		受け答え:感想	
186	2		受け答え:連続的発展⑤	
187	3		受け答え:同意	
188	5		問い尋ね:問い返し	
189	1		作業:作業発話	
190	5	11:00	作業:作業発話	
191	3		作業:作業発話	
192	2		かき乱し:連想逸脱	
193	1		かき乱し:連想逸脱	

複式1年 第1回目話し合いの発話機能分類(5)

発話 番号	話者	時間 経過	発話機能	相互作用の展開
194	5		作業:作業発話	
195	1		主張:指示	
196	2		主張:説明	
197	5		受け答え:連続的發展①	
198	3		受け答え:連続的發展②	
199	1		受け答え:連続的發展③	
200	5		総括:終結	
201	1	12:00	方略:プランニング	話題12
202	5		対自:独り言	最終確認
203	1		方略:方針確認	
204	5		問い尋ね:判断請求	
205	1		総括:結論整理	
206	5		作業:書き方修正	
207	1	12:53	総括:結論確認	

資料2 単式学級の1回目話し合いの相互作用

単式1年 第1回目話し合いの発話機能分類(1)

発話 番号	話者	時間 経過	発話機能	相互作用の展開
1	5		主張:発案	話題1
2	2		主張:発案	意見の乱立状態
3	4		主張:発案	
4	5		主張:発案	
5	1		主張:発案	
6	2		受け答え:連続的發展①	
7	1		受け答え:連続的發展②	
8	5		主張:発案	
9	1		主張:発案	
10	5		方略:方向性希求	
11	2		態度:注意	
12	3	2:50	主張:発案	各人がそれぞれ自分の主張を散発的に繰り返している状態が続く。このような状態を何とかしてくれ、という意味で発話番号10の発話が出た
13	2		問い尋ね:投げかけ	
14	5		対自:間合い	
15	1		問い尋ね:投げかけ	
16	2		主張:発案	
17	1	3:00	受け答え:同意	
18	5		受け答え:同意	
19	1		かき乱し:連想逸脱	
20	2		対自:独り言	
21	1		対自:独り言	
22	5		主張:発案	
23	1		主張:発案	
24	5		問い尋ね:声かけ	
25	1		主張:発案	
26	3		主張:発案	
27	5		問い尋ね:投げかけ	
28	3		受け答え:応答	
29	2	3:22	方略:プランニング	話題2
30	4		主張:発案	多数決の呼びかけ
31	5		主張:発案	
32	3		主張:発案	
33	1		主張:発案	
34	2		主張:発案	
			方略:方針確認	
35	4		受け答え:同調	
36	1		問い尋ね:投げかけ	
37	5		受け答え:否定	
38	2		問い尋ね:確認	
39	3		主張:挙手	
40	2		問い尋ね:確認	
41	1		主張:挙手	
42	2		総括:結論確認	
43	5		主張:異議	
44	1		主張:説明	
45	5		主張:説明	
46	3	4:00	受け答え:繰り返し	
47	2		受け答え:繰り返し	

単式1年 第1回目話し合いの発話機能分類(2)

発話番号	話者	時間経過	発話機能	相互作用の展開
48	5		主張:発案	
49	1		問い尋ね:同意請求	
50	2		問い尋ね:同意請求	
51	3		問い尋ね:投げかけ	
52	4		受け答え:同意	
53	3		総括:結論づけ	多数決によって氷に決める
54	2		総括:部分的終結	
55	5		態度:不満	
56	1		総括:結論整理	
57	5		態度:不満	
58	1		対自:感情表現	
59	5		態度:非難	
60	2		主張:説明	
61	1		対自:感情表現	
62	5		方略:切り換え前進	話題3
63	1		受け答え:繰り返し	氷の理由を決めようとするが
64	5	5:00	態度:非難	氷に決定したこと自体に異議
65	1		態度:非難	が出て、結局まとまらない状態
66	5		問い尋ね:理由請求	が続く
67	1		受け答え:応答	話者1と話者5との言い争い
68	2		主張:説明	
69	5		問い尋ね:声かけ	
70	1		主張:指示	
71	5		主張:異議	
72	1		態度:催促	
73	5		態度:非難	
74	1		投げ出し	
75	5		態度:非難	
76	1		態度:不満	
77	3		方略:切り換え前進	次に進もうとする切り換え前進
78	5		問い尋ね:問い直し	発話が出るが、他成員がそれ
79	3		受け答え:繰り返し	にしたがわない
80	2		方略:方向性希求	そのため方向性希求の発話が
81	1		方略:方針確認	生じている
82	5	6:00	態度:不満	
83	2		受け答え:否定	
84	1		主張:発案	
85	4		対自:感情表現	
86	2		主張:発案	
87	1		主張:説明	
88	4		作業:作業発話	
89	2		作業:作業発話	
90	3		作業:作業発話	
91	5		主張:指示	最終的に1番は氷に決定する
92	2	6:50	総括:結論づけ	その理由は「なんとなく」
93	5		問い尋ね:問い直し	
94	2		受け答え:応答	
95	5	7:00	方略:切り換え前進	話題4

単式1年 第1回目話し合いの発話機能分類(3)

発話 番号	話者	時間 経過	発話機能	相互作用の展開
96	1		主張:発案	
97	5		主張:発案	
98	1		主張:発案	
99	5		受け答え:繰り返し	
100	1		主張:発案	発話番号100-105
101	5		態度:不満	話者1と話者5との非難の応酬
102	5		態度:非難	が続く
103	1		態度:非難	この応酬をとりなすかたちで
104	5		態度:非難	話者2の発案が生じた
105	2		主張:発案	
106	5		主張:発案	
107	3		問い尋ね:理由請求	
108	2		主張:説明	
109	1		受け答え:繰り返し	
110	2		かき乱し:連想逸脱	
111	5		主張:説明	
112	1	7:53	受け答え:連続的發展①	
113	3		方略:プランニング	発話番号113
114	4		受け答え:同意	結局, 多数決で決めることを
115	3	8:00	方略:方針確認	提案した
116	1		主張:挙手	投げかけ発話が多いが, 投げ
117	2		主張:発案	かける人間がそのつど異なる
118	1		主張:発案	これはまとめ役が不在である
119	3		問い尋ね:投げかけ	ことを意味する
120	2		問い尋ね:指名	
121	5		主張:発案	
122	2		対自:感情表現	
123	1		主張:発案	
124	2		かき乱し:完全逸脱	
125	1		総括:結論づけ	発話番号125
126	2		かき乱し:完全逸脱	2番目が砂漠に決まる
127	1		対自:感情表現	
128	3		方略:切り換え前進	話題5
129	1		問い尋ね:問い返し	砂漠の理由を書くことを求める
130	5		主張:指示	「みんなで決めたから」という
131	1		主張:説明	理由を誰が書くかで手間取っ
132	5		作業:作業発話	ている
133	2		作業:作業発話	
134	5		作業:作業発話	
135	2		作業:作業発話	
136	1		作業:作業発話	
137	2		かき乱し:連想逸脱	
138	3		作業:作業発話	
139	1		作業:作業発話	
140	2	9:00	かき乱し:連想逸脱	
141	1		かき乱し:連想逸脱	
142	2		かき乱し:完全逸脱	
143	5		方略:切り換え前進	話題6
144	1		対自:感情表現	

単式1年 第1回目話し合いの発話機能分類(4)

発話番号	話者	時間経過	発話機能	相互作用の展開
145	5		主張:発案	
146	2		問い尋ね:投げかけ	
147	5		受け答え:同調	
148	3		主張:発案	
149	2		問い尋ね:投げかけ	
150	1		主張:拳手	発話番号152-153
151	2		主張:発案	3番目は病気でいいか確認するが、病気に対する異議が出る
152	1		総括:結論確認	
153	5		主張:異議	
154	1		対自:感情表現	発話番号152-153
155	2		受け答え:同調	発話番号159-160
156	5		受け答え:連続的発展①	発話番号164-165
157	2		主張:発案	結論確認発話に対して異議が出されるのでまとまらない
158	1		態度:意思表示	
159	5	10:00	総括:結論確認	
160	3		主張:異議	決まりかけては異議が出るという現象が繰り返される
161	2		問い尋ね:投げかけ	
162	5		受け答え:同調	
163	2		問い尋ね:同意請求	
164	5		総括:結論確認	
165	1		主張:異議 主張:説明	
166	5		受け答え:連続的発展①	
167	1		受け答え:連続的発展②	
168	5		受け答え:否定	
169	3		作業:作業発話	
170	2		作業:作業発話	
171	5		作業:作業発話	ゴキブリに決定
172	2		作業:作業発話	
173	3		作業:作業発話	
174	2		方略:切り換え前進	話題7
175	1		主張:説明	ゴキブリの理由作成を促す
176	5		受け答え:感情表現	発話が出るが、「みんなで決めた」という前と同じ理由にする
177	1		受け答え:補足	
178	5		主張:指示	
179	2		受け答え:同調	
180	5		受け答え:否定	
181	1		対自:独り言	
182	1	11:00	対自:独り言	
183	5		作業:作業発話	
184	1		作業:作業発話	
185	2		かき乱し:連想逸脱	
186	1		かき乱し:連想逸脱	
187	5		主張:説明	
188	1		方略:切り換え前進	話題8
189	5		主張:異議	人食い鬼の話題に移る
190	2		かき乱し:連想逸脱	
191	5		主張:説明	
192	1		主張:異議	
193	1		総括:結論整理	

単式1年 第1回目話し合いの発話機能分類(5)

発話 番号	話者	時間 経過	発話機能	相互作用の展開
194	5		作業:作業発話	
195	1		作業:作業発話	
196	5		作業:作業発話	
197	1	12:00	作業:作業発話	
198	5		方略:切り換え前進	話題9
199	1		主張:説明	人食い鬼島の
200	5		受け答え:繰り返し	理由を記入
201	2		受け答え:繰り返し	
202	1	13:00	受け答え:繰り返し	
203	5		方略:切り換え前進	話題10
204	1		主張:発案	発言する人を
205	3		作業:作業発話	指示した
206	3		作業:作業発話	最後に残るのは
207	1		主張:説明	病気だけ
208	5	14:00	主張:説明	理由も同時に
209	2		かき乱し:連想逸脱	考えた
210	1		かき乱し:連想逸脱	
211	3		作業:作業発話	
212	5	14:25	総括:終結	

資料3 複式学級の2回目話し合いの相互作用

複式1年 第2回目話し合いの発話機能分類(1)

発話番号	話者	時間経過	発話機能	相互作用の展開
1	1	1:27	問い尋ね: 情報請求	
2	2		受け答え: 情報提供	
3	3		受け答え: 情報提供	
4	4		受け答え: 情報提供	
5	5		受け答え: 情報提供	
6	1		総括: 結論確認	
7	3		受け答え: 同意	
8	5		受け答え: 感想	
9	1		作業: 作業発話	
10	3		方略: 呼びかけ	話題1
11	2		作業: 作業発話	誰が何番を決めるかという
12	1		作業: 作業発話	方法で進めてはどうかという
13	3		方略: プランニング	呼びかけ発話が出る
14	5		方略: 方針確認	方法論が明確に出ている
15	3	2:00	方略: プランニング	
16	1		主張: 発案	
17	3		主張: 異議	
18	1		対自: 感情表現	
19	2		受け答え: 同意前進	
20	4		受け答え: 繰り返し	発話番号21
21	5		主張: 発案	へびに決定
22	3		主張: 発案	
23	2		主張: 異議	
24	5		主張: 説明	
25	1		方略: 切り換え前進	話題2
26	5		受け答え: 同意前進	へびの理由
27	3		方略: 切り換え前進	
28	1		主張: 説明	
29	3		方略: 呼びかけ	話題3
30	2		態度: 意思表示	2番目を決めたい人を募る
31	3		問い尋ね: 指名	あくまで最初のプランに従って
32	2		態度: 意思表示	進めている
33	3		主張: 発案	構造化された話し合いに
34	2	3:00	主張: 発案	なっている
35	3		主張: 発案	
36	2		受け答え: 繰り返し	
37	1		総括: 結論整理	2番目はワニに決定
38	4		総括: 部分的終結	
39	5		方略: 切り換え前進	話題4
40	1		受け答え: 繰り返し	ワニの理由
41	3		主張: 指示	
42	4		問い尋ね: 理由請求	
43	3		方略: 方針確認	
44	2		問い尋ね: 情報請求	
45	1		受け答え: 情報提供	
46	2		主張: 説明	
47	5		主張: 説明	

複式1年 第2回目話し合いの発話機能分類(2)

発話 番号	話者	時間 経過	発話機能	相互作用の展開
48	2		対自:独り言	
49	1		主張:説明	ワニの理由は結局決まらず
50	5		主張:説明	次の話題に移る
51	3		主張:指示	
52	5		受け答え:応答	
53	3		方略:プランニング	話題5
54	1		受け答え:応答	3番目を決める人を指定する
55	3	4:00	受け答え:補足	しかし別の児童が自分が決め
56	4		主張:異議	ことを主張する
57	5		態度:注意	3番目を誰が決めるかで
58	3		態度:注意	もめている
59	4		態度:不満	
60	1		態度:不満	大枠のプランは維持しながら
61	5		方略:呼びかけ	局所的方向性の部分で
62	3		態度:意思表示	もめている
63	4		態度:意思表示	
64	1		態度:不満	
65	5		問い尋ね:指名	
66	1		態度:不満	
67	3		態度:不満	
68	1		方略:方針確認	
69	3		受け答え:同意	
70	4		態度:不満	結局,ジャンケンで決める
71	5		方略:呼びかけ	ことにする
72	3		主張:異議	
73	5		受け答え:同調	
74	1		方略:切り換え前進	話題6
75	2		主張:発案	ワニの理由
76	1		受け答え:感情表現	先の話題の続きを行う
77	2		主張:説明	
78	1	5:00	主張:説明	
79	2		受け答え:繰り返し	
80	5		受け答え:確認	
81	4		主張:説明	
82	3		対自:感情表現	ワニの理由決定
83	4		態度:意思表示	
84	1		総括:部分的終結	
85	4		受け答え:応答	
86	3		方略:方針確認	話題7
87	4		態度:不満	3番は誰が決めるかについて
88	5		主張:指示	結局話者1が決めることになる
89	1		態度:意思表示	3番はコウモリに決定
90	4		受け答え:感情表現	
91	1		主張:発案	
92	4		受け答え:感情表現	
93	5	6:00	受け答え:感想	
94	1		受け答え:応答	
95	3		方略:切り換え前進	話題8

複式1年 第2回目話し合いの発話機能分類(3)

発話番	話者	時間経過	発話機能	相互作用の展開
96			主張:発案	話題8
97			対自:感情表現	コウモリの理由
98			主張:説明	
99			主張:説明	
100			受け答え:同調	
101			受け答え:同調	
102			主張:説明	
103			受け答え:応答	
104			受け答え:同調	
105			受け答え:否定	
106			主張:説明	
107			主張:説明	
108			主張:説明	
109		7:00	受け答え:補足	
110			主張:説明	
111			主張:説明	
112			方略:切り換え前進	話題9 112
113			主張:発案	4番目は毒グモ
114			受け答え:否定	に決定
115			主張:発案	
116			かき乱し:完全逸脱	
117			かき乱し:完全逸脱	
118			主張:説明	
119			主張:説明	
120			主張:説明	
121			方略:切り換え前進	話題10
122		8:00	かき乱し:連想逸脱	毒グモの理由
123			主張:説明	
124			主張:発案	
125			主張:説明	124の発話を受けてまわりの
126			主張:発案124の続き	成員がその内容を発展させる
127			受け答え:連続的発展①	
128			受け答え:連続的発展②	
129			受け答え:連続的発展③	
130			対自:感情表現	
131			受け答え:連続的発展④	
132			受け答え:応答	
133			受け答え:連続的発展⑤	
134		9:00	問い尋ね:疑問	
135			受け答え:同調	
136			問い尋ね:疑問	
137			総括:結論整理	
138			対自:感情表現	
139			受け答え:繰り返し	
140			方略:切り換え前進	話題11
141			かき乱し:連想逸脱	オオカミの理由
142			主張:説明	
143			方略:方針確認	
144		10:00	主張:説明	

複式1年 第2回目話し合いの発話機能分類(4)

発話番	話者	時間経過	発話機能	相互作用の展開
145		2	かき乱し:連想逸脱	
146		4	主張:発案	最後はオオカミ
147		1	受け答え:応答	しか残っていない
148		4	主張:146の説明	ので、理由だけ
149		1	受け答え:連続的發展①	を考えればよい
150		4	受け答え:連続的發展②	
151		1	受け答え:連続的發展③	
152		5	受け答え:連続的發展④	
153		3	受け答え:連続的發展⑤	
154		1	総括:結論確認	
155		3	主張:発案	
156		2	問い尋ね:問い返し	
157		3	受け答え:応答	
158		2	受け答え:応答	
159		1 11:00	受け答え:応答	
160		3	受け答え:同調	
161		4	受け答え:同調	
162		1	主張:発案	
163		3	受け答え:連続的發展①	
164		1	総括:結論確認	
165		4	受け答え:同調	
166		2	作業:作業発話	
167		4	受け答え:連続的發展②	
168		1	総括:結論整理	話題12
169		2	作業:作業発話	全体の順番と
170		1	作業:作業発話	その理由の確認
171		3	かき乱し:連想逸脱	
172		5	かき乱し:連想逸脱	
173		1 12:00	総括:結論整理	
174		3	主張:説明	
175		1	総括:結論づけ	
176		2	主張:説明	
177		1	総括:結論づけ	
178		2	受け答え:応答	
179		1 12:28	総括:結論確認	

資料4 単式学級の2回目話し合いの相互作用

単式1年 第2回目話し合いの発話機能分類(1)

発話番号	話者	時間経過	発話機能	相互作用の展開	
1	2	2:00	方略:方向性希求	話題1 話題1では、話者1と話者5とが両方ともにオオカミを主張したためオオカミにすんなりと決まった	
2	1		主張:発案		
3	5		受け答え:否定		
4	1		受け答え:同調		
5	5		主張:発案		
6	1		受け答え:連続的發展①		
7	5		問い尋ね:声かけ		
8	1		主張:発案		
9	4		受け答え:繰り返し		
10	1		主張:発案		
11	5		主張:発案		
12	4		問い尋ね:投げかけ		
13	5		受け答え:同意		
14	1		受け答え:同意		
15	5		作業:作業発話		
16	2		主張:発案		
17	5		受け答え:感想		
18	2		主張:発案の繰り返し		
19	3		作業:作業発話		結論として オオカミ案になる
20	5		総括:結論整理		
21	1	3:00	方略:切り換え前進	話題2 オオカミの理由 話者1の発話番号21の主張がそのまま採択された 特に話し合うこともなく、単発の意見をそのまま結論として採用した 話し合いがなされないという点では話題1、話題2ともに同じ様相である	
22	2		主張:説明		
23	1		問い尋ね:投げかけ		
24	5		受け答え:同調		
25	3		主張:指示		
26	4		問い尋ね:問い直し		
27	3		対自:感情表現		
28	4		問い尋ね:問い直し		
29	1		主張:説明		
30	5		作業:作業発話		
31	1		作業:作業発話		
32	3		作業:作業発話		
33	1		作業:作業発話		
34	2		作業:作業発話		
35	1		作業:作業発話		
36	3		作業:作業発話		
37	4		4:00		作業:作業発話
38	1				作業:作業発話
39	3		方略:切り換え前進	話題3 2番目を何にするか 発話番号47の話者5によるへび案がそのまま採用される 話題3も単発意見を話し合わずにそのまま採用している	
40	5		作業:作業発話		
41	2		かき乱し:完全逸脱		
42	1		かき乱し:完全逸脱		
43	4		主張:発案		
44	3		主張:発案		
45	2		主張:発案		
46	1		主張:発案		
47	5		主張:発案		

単式1年 第2回目話し合いの発話機能分類(2)

発話番号	話者	時間経過	発話機能	相互作用の展開	分析方針
48	2		受け答え:同調		
49	5		受け答え:同調		
50	1		受け答え:同調		
51	3		作業:作業発話		
52	1	5:00	主張:説明		
53	5		主張:発案	話題4	
54	2		主張:発案	へビの理由	
55	3		方略:方向性希求	話題を転換する区切り発話は	
56	1		主張:発案	なく、いきなり理由発話が出る	
57	4		受け答え:感想	発話番号53の話者5の発案	
58	1		主張:発案	を話し合うことなくそのまま	
59	5		作業:作業発話	採用した	
60	1		受け答え:連続的発展①	話題4も同じ方法で進む	
61	5		受け答え:連続的発展②		
62	1		受け答え:感情表現		
63	3		作業:作業発話		
64	1		作業:作業発話		
65	4		作業:作業発話		
66	1		作業:作業発話		
67	5	6:00	作業:作業発話		
68	2		作業:作業発話		
69	1		対自:感情表現		
70	3		方略:切り換え前進	話題5	
71	1		主張:発案	ワニの発案	
72	5		受け答え:否定		
73	2		受け答え:応答		
74	5		問い尋ね:投げかけ	話者1の最初の発案(発話番号	
75	1		受け答え:応答	71)が話し合われることなく、	
76	1		受け答え:応答	そのまま採用された	
77	5		主張:指示		
78	1		主張:発案		
79	2		問い尋ね:投げかけ		
80	1		対自:感情表現		
81	5		主張:拳手		
82	2		問い尋ね:投げかけ		
83	1		受け答え:同調		
84	5		受け答え:同調		
85	2		受け答え:同調		
86	4		受け答え:同調		
87	1		主張:発案		
88	2	7:00	受け答え:同調		
89	2		作業:作業発話		
90	1		作業:作業発話		
91	2		作業:作業発話		
92	5		作業:作業発話		
93	4		作業:作業発話		
94	2		作業:作業発話		
95	3		作業:作業発話		

単式1年 第2回目話し合いの発話機能分類(3)

発話番号	話者	時間経過	発話機能	相互作用の展開
96	5		主張:発案	話題6
97	1		受け答え:連続的発展①	ワニの理由
98	2		対自:独り言	発話番号96の話者5の発案に
99	1		受け答え:繰り返し	対してはじめて意見の蓄積
100	5		受け答え:連続的発展②	現象がみられた
101	1		問い尋ね:問い返し	ただし、いったん結論が出ながら
102	5		受け答え:繰り返し	らも冗長な作業発話が続く
103	1		受け答え:連続的発展③	
104	2		受け答え:連続的発展④	
105	5	8:00	受け答え:応答	
106	2		受け答え:連続的発展⑤	
107	1		対自:感情表現	
108	5		受け答え:繰り返し	
109	2		問い尋ね:問い返し	
110	5		受け答え:応答	
111	2		総括:結論づけ	
112	3		作業:作業発話	
113	1		作業:作業発話	
114	2		作業:作業発話	
115	4		作業:作業発話	
116	2		作業:作業発話	
117	1		作業:作業発話	
118	5		作業:作業発話	
119	2	9:00	作業:作業発話	
120	1		作業:作業発話	
121	5		作業:作業発話	
122	4		作業:作業発話	
123	2		作業:作業発話	
124	1		作業:作業発話	
125	3		作業:作業発話	
126	1		作業:作業発話	
127	4		作業:作業発話	
128	1		作業:作業発話	
129	2		作業:作業発話	
130	1		かき乱し:完全逸脱	
131	2	10:00	態度:注意	
132	5		方略:切り換え前進	話題7
133	1		主張:挙手	クモに決定
134	1, 5		受け答え:応答	ジャンケンで決め始めた
135	5		対自:感情表現	話し合わない決定方法をとる点ではいままでと同じ
136	1		主張:発案	
137	5		主張:発案	
138	1		問い尋ね:投げかけ	
139	1, 2		受け答え:同調	
140	5		問い尋ね:投げかけ	
141	1		主張:発案	
142	5		問い尋ね:確認	
143	1		問い尋ね:確認	
144	2		受け答え:応答	

単式1年 第2回目話し合いの発話機能分類(4)

発話番号	話者	時間経過	発話機能	相互作用の展開
145	1		総括: 結論整理	
146	3		作業: 作業発話	
147	5		作業: 作業発話	
148	1		主張: 発案	話題8
149	5		態度: 非難	
150	1		主張: 繰り返し	
151	4		かき乱し: 連想逸脱	
152	3	11:00	かき乱し: 連想逸脱	
153	1		受け答え: 連続的発展①	
154	2		受け答え: 連続的発展②	
155	2		受け答え: 連続的発展③	
156	1		かき乱し: 連想逸脱	
157	5		問い尋ね: 確認	
158	1		主張: 発案	
159	5	12:00	受け答え: 連続的発展①	
160	1		受け答え: 連続的発展②	
161	4		対自: 感情表現	
162	2		受け答え: 感想	
163	5		主張: 異議	
164	1		受け答え: 繰り返し	
165	5		主張: 異議	
166	2		受け答え: 連続的発展③	
167	1		主張: 発案	
168	5		問い尋ね: 疑問	
169	1		受け答え: 繰り返し	
170	5		受け答え: 連続的発展①	
171	3		作業: 作業発話	
172	1		受け答え: 連続的発展②	
173	5		主張: 異議	
174	2	13:00	問い尋ね: 投げかけ	
175	1		主張: 発案	
176	5		主張: 発案	
177	1		受け答え: 連続的発展①	連続的発展発話がみられ、
178	5		総括: 結論確認	多少は意見の蓄積が可能に
179	1		受け答え: 同調	なった
180	4		主張: 発案	発話番号178-179で話者5
181	5		受け答え: 同調	と話者1とが同調したため、
182	1		受け答え: 連続的発展①	最後はすんなりと決まった
183	5	14:00	作業: 作業発話	ロープに決定
184	1		作業: 作業発話	
185	3		作業: 作業発話	
186	1		方略: 切り換え前進	話題9
187	2	15:00	作業: 作業発話	コウモリの理由
188	5		作業: 作業発話	最後に残った
189	1		作業: 作業発話	ものは理由のみ
190	1		方略: 方針確認	を考えれば
191	5		応答: 繰り返し	よい
192	1		主張: 発案	
193	5		態度: 不満	

単式1年 第2回目話し合いの発話機能分類(5)

発話 番号	話者	時間 経過	発話機能	相互作用の展開
194	1		態度：不満	
195	5	16:00	態度：了解	
196	1		主張：発案	
197	5		主張：異議	
198	3		主張：発案	
199	1		問い尋ね：迷い	
200	5		主張：発案	
201	1		主張：発案	
202	5		受け答え：否定	
203	1		総括：結論確認	
204	5		態度：不満	
205	1		総括：結論確認	
206	5		態度：不満	
207	1		総括：結論確認	
208	5		態度：不満	
209	1		総括：結論確認	
210	5		態度：了解	
211	1		主張：発案	
212	1	17:00	主張：繰り返し	
213	5		態度：非難	
214	1	17:18	方略：方向性希求	

話をまとめようとするが、その
つど不満表出にあい、なかなか
まとまらない
言い争っているのは話者1と
話者5

資料5 複式学級の3回目話し合いの相互作用

複式1年 第3回目話し合いの発話機能分類(1)

発話 番号	話者	時間 経過	発話機能	相互作用の展開
1	5	1:59	主張:発案(くつ)	話題1 1番目から順番に決めている
2	3	2:00	態度:意思表示	
3	1		態度:注意	
4	5		方略:呼びかけ	
5	2		主張:発案(くつ)	
6	1		主張:発案同調	
7	2		主張:発案繰り返し	
8	1		方略:切り換え前進	話題2 くつの理由 ひとつの話題に集中して 意見を蓄積している
9	3		主張:発案	
10	2		受け答え:連続的発展①	
11	3		受け答え:連続的発展②	
12	5		受け答え:連続的発展③	
13	4		受け答え:連続的発展④	
14	2	3:00	受け答え:連続的発展⑤	
15	1		受け答え:連続的発展⑥	
16	5		受け答え:連続的発展⑦	
17	1		受け答え:連続的発展⑧	
18	2		受け答え:連続的発展⑨	
19	5		受け答え:連続的発展⑩	
20	1		作業:作業発話	
21	5		受け答え:連続的発展⑪	
22	1		受け答え:連続的発展⑫	
23	3		受け答え:連続的発展⑬	
24	3		受け答え:連続的発展⑭	
25	2		受け答え:連続的発展⑮	
26	1		受け答え:連続的発展⑯	
27	2		受け答え:連続的発展⑰	
28	3		受け答え:確認	
29	5		受け答え:確認	
30	3		受け答え:確認	
31	4		受け答え:連続的発展⑱	
32	1	4:00	方略:切り換え前進	
33	5		受け答え:応答	
34	1		態度:うながし	
35	2		受け答え:連続的発展⑲	
36	1		受け答え:連続的発展⑳	
37	2		受け答え:連続的発展㉑	
38	4		受け答え:連続的発展㉒	
39	5		主張:発案1	話題3 発話番号39の発案1がそのま ま採用されるが,話し合いは きちんと行われている
40	3		主張:発案2	
41	5		受け答え:連続的発展①	
42	3		受け答え:連続的発展②	
43	5		受け答え:連続的発展③	
44	2		受け答え:連続的発展④	
45	3		総括:結論確認	
46	5		総括:結論整理	

複式1年 第3回目話し合いの発話機能分類(2)

発話番号	話者	時間経過	発話機能	相互作用の展開	
47	1	5:00	方略:切り換え前進	話題4 発話番号48の主張がそのまま採用される	
48	5		主張:発案		
49	3		受け答え:否定	薬の理由	
50	4		受け答え:応答		
51	1		受け答え:繰り返し		
52	5		受け答え:繰り返し		
53	1	6:00	方略:切り換え前進	話題5 3番はマイク 発話番号60の意見をそのまま採用した 5つの選択肢を ひとりずつに割り振る方略をとっているため、当該番号の担当者の意見はそのまま採用される傾向にある	
54	5		受け答え:応答		
55	1		主張:挙手		
56	5		問い尋ね:指名		
57	1		対自:間合い		
58	2		かき乱し:連想逸脱		
59	1		かき乱し:連想逸脱		
60	5		主張:発案		
61	2		作業:作業発話		
62	1		主張:発案		話題6 マイクの理由 最初の発案に肉づけする形で決まる 当該の番号の担当者の意見には必ず従っている 話題5, 6の担当者は話者1
63	2		受け答え:連続的發展①		
64	5	受け答え:連続的發展②			
65	2	受け答え:連続的發展③			
66	1	受け答え:連続的發展④			
67	3	受け答え:連続的發展⑤			
68	2	受け答え:連続的發展⑥			
69	3	受け答え:連続的發展⑦			
70	2	受け答え:連続的發展⑧			
71	5	受け答え:連続的發展⑨			
72	2	受け答え:連続的發展⑩			
73	5	受け答え:連続的發展⑪			
74	2	受け答え:連続的發展⑫			
75	5	7:00	方略:切り換え前進	話題7 4番は話者4が担当している 話者4の発話番号77の意見が最終的にとる 笛に決まる	
76	1		受け答え:応答		
77	4		主張:発案		
78	5		受け答え:連続的發展①		
79	4		受け答え:連続的發展②		
80	5		主張:発案		
81	2		受け答え:連続的發展③		
82	1		態度:催促		
83	5		主張:発案		
84	2		かき乱し:連想逸脱		
85	1		受け答え:応答		
86	4		態度:意思表示		
87	1	7:00	問い尋ね:問い返し	話題8 笛の理由	
88	5		問い尋ね:理由請求		
89	4		主張:発案		
90	3		受け答え:感想		
91	5		主張:説明		
92	3		主張:説明		
93	4		主張:発案		
94	5		受け答え:連続的發展①		
95	3		主張:発案		

複式1年 第3回目話し合いの発話機能分類(3)

発話番号	話者	時間経過	発話機能	相互作用の展開
96	2	8:00	受け答え:連続的發展①	
97	5		受け答え:連続的發展②	
98	2		受け答え:連続的發展③	
99	4		主張:発案	
100	5		主張:発案	
101	5		作業:作業発話	
102	1		問い尋ね:投げかけ	
103	4	主張:発案		
104	3	主張:発案		
105	4	主張:103の修正発案		
106	1	態度:感想		
107	5	9:00	作業:作業発話	
108	1	10:00	方略:切り換え前進	話題9
109	2		主張:発案	残りはバナナしか
110	3		受け答え:応答	ないので理由を
111	2		受け答え:応答	考える
112	1		態度:意思表示	担当は話者2
113	3		態度:意思表示	
114	1		方略:呼びかけ	みんなで決める
115	5		主張:発案	ことになった
116	3		受け答え:連続的發展①	
117	5		受け答え:連続的發展②	
118	4		受け答え:連続的發展③	
119	1		受け答え:連続的發展④	
120	5		受け答え:連続的發展⑤	
121	4		受け答え:連続的發展⑥	
122	2		態度:注意	
123	4		態度:意思表示	
124	3		主張:発案	
125	4		主張:異議	
126	3		主張:発案の繰り返し	
127	4		態度:非難	発話番号122, 129
128	3		態度:非難	非難の応酬になったが
129	2		主張:修復	すぐに担当である話者2
130	4		主張:発案(121の続き)	の注意, 修復発話が入る
131	3		受け答え:連続的發展①	したがって長くは続かない
132	4		受け答え:連続的發展②	もとにもどそうとする
133	3		受け答え:連続的發展③	復元力が働く
134	4	受け答え:連続的發展④		
135	3	受け答え:連続的發展⑤		
136	1	受け答え:連続的發展⑥		
137	2	主張:発案		
138	3	受け答え:連続的發展①		
139	4	受け答え:連続的發展②		
140	2	受け答え:連続的發展③		
141	4	11:00	受け答え:連続的發展④	
142	5	受け答え:連続的發展⑤		
143	2	受け答え:連続的發展⑥		
144	4	主張:発案		

複式1年 第3回目話し合いの発話機能分類(4)

発話 番号	時間 経過	発話機能	相互作用の展開
145	2	作業:作業発話	
146	1	作業:作業発話	
147	2	作業:作業発話	
148	5 11:30	総括:終結	

資料6 単式学級の3回目話し合いの相互作用

単式1年 第3回目話し合いの発話機能分類(1)

発話番号	話者	時間経過	発話機能	相互作用の展開
1	1		方略:呼びかけ	話題1
2	3		作業:作業発話	意見の乱立状態
3	1		主張:発案	話者1と話者5との言い争いが続く
4	5		主張:異議	
5	1		主張:発案3のくりかえし	
6	5		主張:異議	
7	1		主張:発案3のくりかえし	
8	2	2:00	方略:投げかけ	
9	5		受け答え:連続的發展①	
10	3		受け答え:連続的發展②	
11	2		問い尋ね:投げかけ	
12	1		主張:挙手	
13	2		問い尋ね:投げかけ	
14	2		主張:説明	
15	1		受け答え:同調	
16	5		主張:説明	
17	1		主張:発案	
18	5		受け答え:連続的發展①	
19	2		主張:発案	
20	1		受け答え:同調	
21	5		受け答え:同調	
22	1		主張:発案	
23	2		主張:発案	
24	5		主張:異議	
25	1		主張:発案	
26	2		主張:発案	
27	5		主張:異議	
28	1		問い尋ね:疑問	
29	2	3:00	問い尋ね:投げかけ	
30	1		問い尋ね:投げかけ	発案, 異議, 投げかけの繰り返して, 特定の話題について話し合い, 意見を蓄積, 発展させる現象がみられない
31	3		主張:挙手	
32	1		問い尋ね:投げかけ	
33	5		主張:異議	
34	1		受け答え:同調	
35	5		主張:異議	
36	1		主張:発案(仲間)	
37	5		受け答え:同調	
38	2		受け答え:同調	
39	5		かき乱し:完全逸脱	
40	3		受け答え:連続的發展①	
41	1		受け答え:連続的發展②	
42	5		かき乱し:完全逸脱	
43	1		受け答え:同調	
44	4		受け答え:連続的發展③	
45	1		受け答え:連続的發展④	
46	2		対自:感情表現	
47	1	4:00	対自:感情表現	

単式1年 第3回目話し合いの発話機能分類(2)

発話番号	話者	時間経過	発話機能	相互作用の展開
48	5		かき乱し:完全逸脱	
49	1		主張:発案(仲間)の繰り返し	
50	2		作業:作業発話	
51	1		作業:作業発話	
52	2		作業:作業発話	
53	4		作業:作業発話	
54	3		作業:作業発話	仲間に決定
55	1	5:00	かき乱し:連想逸脱	発話番号36, 37とで
56	5		作業:作業発話	話者1と話者5との意見が
57	4		作業:作業発話	一致したため, 結論が
58	5		作業:作業発話	まとまった
59	5		作業:作業発話	
60	5		作業:作業発話	
61	2		方略:切り換え前進	話題2
62	1		主張:発案	仲間に決定
63	2		受け答え:感想	した理由
64	5		態度:非難	
65	1		作業:作業発話	
66	2		作業:作業発話	
67	1	6:00	作業:作業発話	
68	2		作業:作業発話	
69	5		態度:非難	
70	1		態度:非難	
71	2		態度:非難	
72	5		態度:非難	
73	1		態度:非難	
74	5		かき乱し:完全逸脱	
75	1		かき乱し:完全逸脱	
76	5		かき乱し:完全逸脱	
77	1		かき乱し:完全逸脱	
78	2		問い尋ね:投げかけ	大枠としての進め方を決めず
79	1		主張:発案	に, 個々の決定に関する
80	3		作業:作業発話	投げかけだけをおこなっている
81	4		受け答え:連続的発展①	
82	1		受け答え:連続的発展②	
83	5	7:00	受け答え:連続的発展③	
84	1		受け答え:連続的発展④	
85	5		受け答え:連続的発展⑤	
86	2		問い尋ね:投げかけ	話題3
87	1		問い尋ね:投げかけ	2番目をどれに
88	5		態度:非難	するか
89	2		問い尋ね:投げかけ	
90	3		受け答え:応答	
91	2	8:00	問い尋ね:投げかけ	
92	1		問い尋ね:問い直し	
93	2		問い尋ね:投げかけ	
94	1		主張:発案	
95	5		問い尋ね:問い直し	

単式1年 第3回目話し合いの発話機能分類(3)

発話 番号	話者	時間 経過	発話機能	相互作用の展開
96	1		主張: 発案94の繰り返し	
97	5		問い尋ね: 問い直し	
98	1		受け答え: 応答	
99	2		問い尋ね: 投げかけ	
100	1		主張: 挙手	
101	2		問い尋ね: 投げかけ	
102	1		主張: 発案(ライオン)	
103	2	9:00	問い尋ね: 投げかけ	
104	1		態度: うながし	2番目は靴に決定
105	5		作業: 作業発話	ここでも話者3の提案に対し
106	3		主張: 発案(靴)	話者1と話者5とが同調した
107	5		受け答え: 同調	ことで結論が決まった
108	1		受け答え: 同調	
109	5		態度: 非難	
110	2		作業: 作業発話	
111	1		作業: 作業発話	
112	5		作業: 作業発話	
113	1	10:00	作業: 作業発話	
114	2		方略: 切り換え前進発話	話題4
115	5		受け答え: 繰り返し	靴の理由
116	2		受け答え: 繰り返し	
117	1		主張: 発案	
118	5		受け答え: 連続的発展①	
119	1		主張: 発案117の反復	ある発話を吟味
120	2		問い尋ね: 問い直し	することなく、自動
121	1		主張: 発案117の反復	的に結論としている
122	2		作業: 作業発話	
123	5		作業: 作業発話	
124	2		作業: 作業発話	
125	5		作業: 作業発話	
126	3		作業: 作業発話	
127	1	11:00	作業: 作業発話	
128	2		作業: 作業発話	
129	1		作業: 作業発話	
130	2		作業: 作業発話	
131	1		作業: 作業発話	
132	2		方略: 切り換え前進発話	話題5
133	1		主張: 発案	3番は薬に決定
134	2		問い尋ね: 投げかけ	特定の成員からの発話を
135	1		主張: 発案	「これでいいか」投げかけて、
136	5		受け答え: 繰り返し	ひとりから賛同を得られた
137	2		問い尋ね: 投げかけ	時点で結論にしてしまう
138	2		総括: 結論整理	話し合いになっていない
139	3		受け答え: 繰り返し	
140	5	12:00	かき乱し: 完全逸脱	
141	3		対白: 感情表現	
142	5		態度: 非難	
143	3		対他: 感情表現	
144	1		態度: 不満	

単式1年 第3回目話し合いの発話機能分類(4)

発話番号	話者	時間経過	発話機能	相互作用の展開
145	2		方略:切り換え前進発話	話題6
146	1		受け答え:応答	薬の理由
147	2		受け答え:否定	発話番号148-150
148	1		主張:発案	ある発話に誰かひとりが
149	5		対自:感情表現	同調すればそれであっさり
150	1		受け答え:同調	決まってしまう
151	1		作業:作業発話	
152	1		作業:作業発話	
153	3		作業:作業発話	
154	1	13:00	作業:作業発話	
155	2		主張:発案	話題7
156	1		主張:発案	4番目を決める
157	5		主張:発案	
158	1		受け答え:連続的発展①	話題7, 話題8では
159	2		受け答え:連続的発展②	連続的発展発話数が増え,
160	1		受け答え:連続的発展③	意見の蓄積もできるように
161	3		方略:呼びかけ	なった
162	1		受け答え:連続的発展④	ただし発話番号167まで
163	5	14:00	受け答え:連続的発展⑤	話し合ったものの結論に至ら
164	2		受け答え:連続的発展⑥	ず, 発話番号168で出された
165	1		受け答え:連続的発展⑦	結論であっさりと収めて
166	4		受け答え:連続的発展⑧	しまった
167	5		受け答え:連続的発展⑨	4番目はライオン
168	3		主張:発案	
169	1		作業:作業発話	
170	5		態度:うながし	
171	4		態度:うながし	
172	3		作業:作業発話	
173	2		作業:作業発話	
174	3		総括:結論整理	
175	1	15:00	主張:発案	話題8
176	5		受け答え:連続的発展①	ライオンの理由
177	2		受け答え:連続的発展②	
178	1		受け答え:連続的発展③	
179	5		受け答え:連続的発展④	
180	2		受け答え:連続的発展⑤	
181	1		受け答え:連続的発展⑥	
182	2		態度:悲観	
183	1		情報提供	
184	5		主張:発案	
185	1		受け答え:連続的発展①	
186	5		受け答え:連続的発展②	
187	1		受け答え:連続的発展③	
188	2		作業:作業発話	
189	1		作業:作業発話	
190	4		作業:作業発話	
191	2		対自:独り言	話題9
192	1	16:00	作業:作業発話	バナナの理由
193	3		作業:作業発話	

単式1年 第3回目話し合いの発話機能分類(5)

発話 番号	話者	時間 経過	発話機能	相互作用の展開
194	2		問い尋ね: 問い返し	
195	1		主張: 説明	
196	2		対白: 独り言	
197	5		対白: 独り言	
198	2		作業: 作業発話	
199	1	17:00	作業: 作業発話	

資料7 複式学級の4回目話し合いの相互作用

複式1年 第4回目話し合いの発話機能分類(1)

発話番号	話者	時間経過	発話機能	相互作用の展開
1	2		主張:発案(スズメバチ)	話題1
2	3		受け答え:否定	文脈なしに発案を
3	4		問い尋ね:問い返し	出し合っている状態
4	5		受け答え:説明	
5	3		受け答え:同調	
6	5		受け答え:確認	
7	3		主張:発案(女王アリ)	
8	2		主張:発案(スズメバチ)	
9	3		主張:発案(カブトムシ)	
10	4		受け答え:同調	
11	3		受け答え:連続的発展①	
12	2		受け答え:連続的発展②	
13	1		受け答え:連続的発展③	
14	2	2:00	受け答え:連続的発展④	
15	5		受け答え:連続的発展⑤	1番を何にするかを多数決で
16	3		方略:プランニング	決めようとするプランを提出
17	5		問い尋ね:指名	1番はスズメバチ
18	3		主張:発案	
19	5		方略:切り換え前進	話題2
20	3	3:00	主張:発案(スズメバチ)	スズメバチの理由
21	1		主張:発案	
22	3		問い尋ね:投げかけ	発話番号
23	2		主張:発案	19, 27, 39, 49
24	3		主張:発案	単純な理由では
25	5		受け答え:連続的発展①	採用できないと
26	3		受け答え:疑義	主張
27	5		態度:注意	
28	4		主張:発案(25と同じ)	
29	1	4:00	方略:呼びかけ	発話番号29
30	5		受け答え:連続的発展①	話し合いへの
31	2		作業:作業発話	志向性
32	4		作業:作業発話	
33	5		方略:モニター	発話番号33-34
34	1		方略:モニター	話し合いへの
35	5		問い尋ね:投げかけ	志向性
36	3		受け答え:確認	
37	4		主張:発案	
38	1		受け答え:否定	
39	5		受け答え:否定の繰り返し	
40	2		受け答え:否定	
41	5	5:00	主張:発案	
42	2		主張:発案	
43	3		問い尋ね:投げかけ	
44	1		主張:説明	
45	3		受け答え:繰り返し	
46	1		対自:間合い	

複式1年 第4回目話し合いの発話機能分類(2)

発話 番号	話者	時間 経過	発話機能	相互作用の展開
47	3		態度:うながし	
48	5		主張:説明	
49	1		主張:異議	
50	5		問い尋ね:心配	
51	3		態度:感情表現	
52	5		態度:注意	
53	3		態度:うながし	
54	1		主張:説明(48の反復)	
55	5	6:00	態度:注意	
56	3		主張:説明(48の反復)	
57	2		問い尋ね:心配	
58	3		方略:切り換え前進	話題3
59	5		問い尋ね:心配	2番を何にするか
60	1		問い尋ね:心配	
61	5		態度:受容	
62	3		方略:切り換え発言	
63	5		態度:受容	
64	4		問い尋ね:問い返し	発話番号65
65	3		方略:呼びかけ	みんなで話し合うことへの 呼びかけ
66	4		問い尋ね:投げかけ	
67	5		主張:発案	
68	3		主張:発案	
69	1		態度:不満	
70	5		態度:受容	
71	1	7:00	作業:作業発話	
72	3		主張:発案	
73	5		受け答え:否定	
74	3		問い尋ね	
75	5		態度:受容	発話番号78
76	1		主張:発案	話者4が発言しないのだったら
77	5		受け答え:同調	みんなで話し合うと伝えている
78	5	8:00	態度:注意	話し合いへの志向性
			受け答え:確認	発話番号79
79	3		方略:呼びかけ	みんなで話し合うことを
80	4		主張:発案	呼びかけている
81	5		受け答え:繰り返し	
82	3		問い尋ね:問い返し	
83	1		問い尋ね:疑問	2番はムカデ
84	3		受け答え:応答	
85	5		態度:受容	話題4
86	3		受け答え:否定	発話番号87
87	5		方略:切り換え前進	話者4に理由を決めさせようと
88	3		態度:うながし	するが、話者4が発話しない
89	5		態度:受容	ため、みんなで話し合おうとい
90	3		態度:受容	う発話が出た
91	1	9:00	かき乱し:連想逸脱	
92	3		かき乱し:連想逸脱	話題4は
93	5		方略:モニター	ムカデの理由
94	1		問い尋ね:投げかけ	
95	3		主張:発案	

複式1年 第4回目話し合いの発話機能分類(3)

発話番号	話者	時間経過	発話機能	相互作用の展開
96	1	10:00	受け答え:連続的發展①	ムカデの理由は結局決まらなかった
97	3		問い尋ね:投げかけ	
98	1		主張:発案	
99	5		受け答え:否定	
100	5	11:00	方略:プランニング	話題5 発話番号100 全体的な進め方に関するプランを決めた 3番は女王アリ
101	2		主張:発案	
102	3		主張:発案	
103	5		受け答え:同調	
104	3		受け答え:同意	
105	3	11:00	方略:切り換え前進	話題6 発話番号105 発話番号100で全体的な進め方を決めようとして局所的なプランに入っている 4番はバッタ
106	2		問い尋ね:投げかけ	
107	3		受け答え:確認	
108	2		主張:発案	
109	3		問い尋ね:投げかけ	
110	5		受け答え:同調	
111	2		総括:結論整理	
112	4	12:00	主張:説明	話題7 5番はカブトムシ 発話番号100で順番から先に決めてしまうという進め方を決めていた
113	5		受け答え:同意	
114	3		方略:切り換え前進	
115	1		作業:作業発話	
116	3		作業:作業発話	
117	1		作業:作業発話	
118	3		13:00	
119	5	作業:作業発話		
120	3	問い尋ね:投げかけ		
121	5	方略:呼びかけ		
122	3	受け答え:確認		
123	1	主張:発案		
124	3	問い尋ね:投げかけ		
125	4	主張:発案		
126	3	問い尋ね:投げかけ		
127	4	主張:発案		
128	3	作業:作業発話		
129	1	作業:作業発話		
130	3	作業:作業発話		
131	5	作業:作業発話		
132	3	作業:作業発話		
133	2	作業:作業発話		
134	5	作業:作業発話		
135	3	作業:作業発話		
136	3	作業:作業発話		
137	2	作業:作業発話		
138	3	作業:作業発話		
139	5	14:00	方略:切り換え前進	話題9 アリの理由 発話番号143 柔軟な方針変換
140	3		方略:呼びかけ	
141	5		方略:モニター	
142	3		態度:うながし	
143	5		方略:切り換え前進	
144	3		問い尋ね:投げかけ	

複式1年 第4回目話し合いの発話機能分類(4)

発話 番号	話者	時間 経過	発話機能	相互作用の展開
145	3		かき乱し:完全逸脱	
146	4		かき乱し:完全逸脱	バッタとムカデの
147	2		かき乱し:完全逸脱	理由は結局決まら
148	3		かき乱し:完全逸脱	なかった
149	5		主張:発案	
150	1		主張:異議	
151	5	15:00	方略:方針確認	時間切れ終了
152	4	15:25	問い尋ね:疑問	

資料8 単式学級の4回目話し合いの相互作用

単式1年 第4回目話し合いの発話機能分類(1)

発話番号	話者	時間経過	発話機能	相互作用の展開
1	2		主張:発話	話題1
2	5	1:00	受け答え:連続的発展①	連続的発展発話が生じる
3	2		受け答え:連続的発展②	意見の蓄積が起こっている
4	4		受け答え:連続的発展③	
5	5		主張:発話	
6	2		受け答え:連続的発展①	
7	1		受け答え:連続的発展②	
8	5		受け答え:連続的発展③	
9	1		問い尋ね:投げかけ	
10	4		問い尋ね:投げかけ	
11	2		問い尋ね:投げかけ	
12	5		受け答え:同意	
13	1		受け答え:同意	
14	3		受け答え:同意	
15	2		総括:結論確認	
16	5		主張:発話	
17	2		作業:作業発話	作業発話がだらだらと続く
18	1		作業:作業発話	
19	2	2:00	作業:作業発話	
20	1		作業:作業発話	
21	1		作業:作業発話	1番目を何にするか
22	5		作業:作業発話	カブトムシに決定
23	2		作業:作業発話	した
24	5		作業:作業発話	
25	2		作業:作業発話	
26	2		作業:作業発話	
27	3		作業:作業発話	
28	2		作業:作業発話	
29	1		方略:切り換え前進	話題2
			主張:発話	カブトムシの理由
30	2		作業:作業発話	
31	5		受け答え:連続的発展①	連続的発展発話が続くようになった
32	1		受け答え:繰り返し	
33	2		受け答え:繰り返し	まとまりのある話し合いになった
34	5		受け答え:連続的発展②	
35	2		受け答え:確認	
36	4		受け答え:連続的発展③	
37	2		受け答え:連続的発展④	
38	1	3:00	受け答え:繰り返し	
39	2		受け答え:繰り返し	
40	5		受け答え:連続的発展⑤	
41	2		受け答え:連続的発展⑥	
42	5		受け答え:連続的発展⑦	
43	2		作業:作業発話	
44	5		総括:結論整理	
45	2		方略:切り換え前進	話題3
46	5		受け答え:否定	2番は何にするのか
47	2		主張:発話	

単式1年 第4回目話し合いの発話機能分類(2)

発話番号	話者	時間経過	発話機能	相互作用の展開
48	5		受け答え:否定	
49	2		受け答え:説明	連続的発展発話が安定的に
50	5		主張:発案	出現するようになった
51	2		受け答え:連続的発展①	2番は女王アリ
52	5	4:00	受け答え:連続的発展②	
53	1		受け答え:連続的発展③	
54	2		受け答え:連続的発展④	
55	5		受け答え:連続的発展⑤	
56	1		総括:結果整理	
57	5		主張:発案	話題4
58	1		主張:発案	女王アリの理由
59	2		作業:作業発話	
60	2		作業:作業発話	
61	5		受け答え:連続的発展①	
62	2		受け答え:繰り返し	
63	1		受け答え:連続的発展②	
64	2	5:00	受け答え:繰り返し	
65	1		受け答え:連続的発展③	
66	5		態度:非難	
67	2		作業:作業発話	
68	5		受け答え:連続的発展④	
69	2		受け答え:連続的発展⑤	
70	5		受け答え:連続的発展⑥	
71	3		受け答え:連続的発展⑦	
72	2		作業:作業発話	
73	1		作業:作業発話	
74	2		作業:作業発話	
75	5		受け答え:説明	
76	2		態度:非難	
77	5		作業:作業発話	
78	1		作業:作業発話	
79	2		主張:発案	
80	5		受け答え:連続的発展①	
81	2		受け答え:連続的発展②	
82	5	6:00	受け答え:連続的発展③	
83	2		受け答え:連続的発展④	
84	5		受け答え:連続的発展⑤	
85	1		かき乱し:連想逸脱	
86	2		態度:非難	またこれまでの
87	5		態度:不満	ようなけなし合い
88	1		態度:非難	が始める
89	5		態度:非難	発話番号87-88
90	2		問い尋ね:投げかけ	発話番号99-103
91	1		主張:発案(65の反復)	話者5は話者1が主導権を
92	5		態度:非難	握って決めていくことに
93	1	7:00	作業:作業発話	不満をもっている
94	2		作業:作業発話	
95	1		作業:作業発話	

単式1年 第4回目話し合いの発話機能分類(3)

発話番号	話者	時間経過	発話機能	相互作用の展開
96	1		主張:発案(65の反復)	
97	5		問い尋ね:疑問	話し合いのかたちをとることが
98	1		かき乱し:連想逸脱	できるようになったが、依然
99	5		態度:注意	話者1と話者5との対立が
100	1		受け答え:応答	続く
101	5		態度:非難	
102	1		受け答え:応答	
103	5		態度:非難	
104	2		方略:切り換え前進	話題5
105	3		方略:方針確認	3番に移る
106	2		主張:発案(バツタ)	ここまでは、1番から番号順
107	1	8:00	主張:発案(ムカデ)	に対象を選択し、次にその
108	4		受け答え:連続的発展①	理由を書いていく、という
109	2		受け答え:連続的発展②	ように、話し合い全体が
110	5		受け答え:連続的発展③	一つの方略で貫かれている
111	1		主張:発案(ムカデ)	非常に構造化されたスタイル
112	5		受け答え:連続的発展④	
113	2		問い尋ね:投げかけ	ムカデに決定
114	5		態度:不満	話題6
115	1		かき乱し:連想逸脱	ムカデの理由
116	2		かき乱し:連想逸脱	
117	1		かき乱し:連想逸脱	
118	3		かき乱し:連想逸脱	
119	5		問い尋ね:声かけ	
120	4		問い尋ね:問い直し	
121	5		受け答え:応答	
122	3		かき乱し:完全逸脱	
123	1		主張:発案	
124	5		態度:不満	
125	3		かき乱し:完全逸脱	
126	1	9:00	主張:発案	
127	1		問い尋ね:声かけ	
128	5		態度:投げ出し	
129	2		態度:催促	ここのやりとりは
130	5		態度:不満	話者1と話者5との
131	2		問い尋ね5への投げかけ	対立が中心で話者2が
132	5		受け答え:応答	話者5に呼びかけている。
133	1		主張:発案(賛成)	
134	2		問い尋ね5への投げかけ	発話番号128
135	5		態度:投げ出し	発話番号135
136	2		方略:方針確認	話者5は投げだし
137	1	10:00	方略:方針確認	ている
138	2		総括:結果整理	
139	1		方略:切り換え前進	話題7
			主張:発案(スズメバチ)	4番はスズメバチに決定
140	5		受け答え:同調	話者1と話者5とが一致すると
141	2		主張:発案	すんなり決まる
142	1		方略:切り換え前進	話題8
143	2	11:00	受け答え:繰り返し	スズメバチの理由
144	1		主張:発案	

単式1年 第4回目話し合いの発話機能分類(4)

発話 番号	話者	時間 経過	発話機能	相互作用の展開
145	5		受け答え:否定	
146	2		主張:発案	
147	1		主張:発案(144の反復)	
148	2		主張:発案	
149	1		受け答え:同意	
150	5		問い尋ね:声かけ	
151	2		受け答え:応答	
152	1		受け答え:連続的發展①	
153	2		受け答え:繰り返し	
154	1		受け答え:繰り返し	
155	5	12:00	受け答え:連続的發展②	
156	1		受け答え:連続的發展③	
157	2		方略:切り換え前進	話題9
158	5		問い尋ね:疑問	バツタの理由
159	2		受け答え:応答	
160	5		受け答え:応答	
161	1		主張:発案	
162	2	12:45	総括:終結	

資料9—1 話し合いで出現したアイデア

複式学級 1回目

1. ゴキブリを踏んで殺せばゴキブリ島で一生暮らせる
2. ゴキブリを倒すにはゴキブリスプレーをもってくればいい
3. 氷の島では雪だるまをつることができる
4. 氷の島で氷のかけらを探せばいいから
5. 氷の島はスケートができるからいい（スケート靴は海賊から奪う）
6. 砂漠に水がないなら氷の島からもってくればいい
7. ゴキブリは刀のようなもので全部殺す
8. 人食い鬼は豆が大嫌いだから「鬼は外、福は内」といって豆を投げつける
9. 病気の島に行く前にリュックサックの中に薬を持っていけばいい
10. 砂漠の島は暑いけど石の影に隠れば涼しい

単式学級 1回目

1. 砂漠の島はおぼれて死ぬ
2. 人食い鬼の島で食料を探す
3. 人食い鬼の島に鬼は一人しかいない
4. 人食い鬼の島では鬼から逃げればいい
5. 人食い鬼の島の鬼と仲良くなって食料をもらう
6. 人食い鬼の島の鬼は自分たちを食べてもまずくてすぐに吐いてしまう
7. 病気の島は風邪にかかってしまう

複式学級 2回目

1. ワニは川のなかにいる。自分達は地上にいる。
2. 洞窟のなかに水があってその中にワニがいる。
3. 血を吸うコウモリに対して人形でだます
4. 血を吸われないようにケチャップをかぶる。それを血だと思わせる。
5. 血を吸われないようにトマトジュースをかける。それを血だと思わせる。
6. クモの巣を壊してクモが動けなくなったところを殺す
7. コウモリには懐中電灯をあててまぶしくなったところをレーザーをあてて殺す
8. 刀をもってきてオオカミを殺す

資料9—2 話し合いで出現したアイデア

単式学級 2回目

1. オオカミを倒すために武器をもっていけば大丈夫
2. ワニの口に棒を入れて口をとじることができなくする
3. ワニの口に入れる棒は木より鉄がいい
4. クモのいる洞窟はヘルメットをかぶって走り抜ければいい
5. 恐竜が自分達のメンバーの誰かを食べている間に恐竜を殺せばいい
6. 恐竜をナイフで倒せばいい
7. ヘビは足でつぶせばいい
8. 恐竜も洞窟の動物達もこちらから何もしなければ何もしない
9. キックする
10. ロープを振り回す
11. バットで倒す
12. コウモリは空を飛ぶから自分達は地面をあるけばいい

複式学級 3回目

1. 動きをすばやくしてくれる靴をはいて早く走って逃げ回る
2. 動きをすばやくしてくれる靴は目が回る
3. 動きをすばやくしてくれる靴をはいてネコの周りを走ると
ネコが目を回して倒れる
4. どんな傷でも治せる薬さえあればネコにひっかかれてもすぐに
治すことができる
5. ライオンの声を出せるマイクでネコは怖がって逃げてしまう
6. たくさんの仲間を呼び寄せたらよけいネコに殴られる
7. たくさんの仲間を笛で呼んで、10人くらいのおとりをつくって
その間に逃げればいい
8. 糸でクモの巣をつくってそれをバリアにする

単式学級 3回目

1. 動きをすばやくしてくれる靴ですばやく動いて倒せる
2. ライオンの声を出せるマイクを選んだ理由は動けなくなったときも
すぐに動けるから
3. 食べたらおなかが痛くなるバナナを自分達で食べて死んだふりをしたら
ネコは逃げていく
4. ライオンの声を出せるマイクでネコは驚いて逃げていく
5. ライオンの声を出せるマイクでネコは一度逃げるかもしれないが
次にまた来るかもしれない
6. ライオンの声を出せるマイクの電池が切れているかもしれない
7. ライオンの声を出せるマイクで歌を歌う。ライオンが歌ったらネコは逃げていく

資料9—3 話し合いで出現したアイデア

複式学級 4回目

1. カブトムシは硬い
2. スズメバチは毒をもっている
3. 普通のハチは一回刺したらそれで終わりだけどスズメバチは何回も刺すことができる
4. ムカデは土の中にいる。土の中だったらカマキリは掘らないといけないから大丈夫
5. カブトムシはツノでカマキリを飛ばす
6. 女王アリのいるアリの巣に逃げ込む

単式学級 4回目

1. スズメバチもカマキリに食べられる
2. カブトムシはカマキリに食べられない
3. カブトムシは空を飛ぶから乗せてもらって逃げる
4. カマキリのオスは空を飛ぶことができるから空を飛んで逃げても無駄
5. カブトムシは硬い
6. カブトムシには甲羅がある
7. スズメバチは空を飛べるから飛んで逃げられる
8. バッタはジャンプして逃げられる
9. 女王アリは小さいし空も飛べない
10. 女王アリはカマキリより小さいから巣の中に入れればいい
11. 女王アリの巣の中にわざと逃げ込む。そしてたくさんの仲間を呼んでカマキリを攻める
12. わざとカマキリに食べられておなかの中から攻める
13. ムカデは毒をもっている。針で攻撃すればいい
14. スズメバチがカマキリを空に連れて行って地面に落として殺す